

鯨 鯨
鯨 鯨
鯨 鯨
鯨 鯨

二年生 砥川 倫

鴈 柳
鴈 柳
鴈 柳
鴈 柳

二年生 砥井 好

蛎 鷄
蛎 鵠
蘘 鮫
葵 鱒

二年生 紙木佳

三年生 紙川佳

紙 紙 紙 紙 紙
井 岬 田 木 の
紙 紙 田 木 の
紙 井 岬 田 木 の
紙 井 岬 田 木 の

紙 紙 紙 紙 紙
川 の 田 と う 田

婿 婿 紙 隣 解

三年生 紙田 終

鴻の

一 吸

三年生 紙田 終

釣 団 の 徒
万 信 の 鎬

四年生 紙 俣

身を撰入の

いたさを 扱ふから

怪しかりけり

怪しかりん

四年生

紙 俣

俣

日造 月跡

日造生

紙白

稿

斯の如く書しつゝ、ある所へ活眼萬世を洞覽する文部大臣も亦入り来り今生徒か斯く自在に新文字を綴りたるを見てうたゝ感嘆して曰く将来新日本の前途芽出し何氣なき可憐なる児童も此の活用ありて彼の文字を書せり欣慕の至り慶福の次弟ありとて大に訓導司の教授を稱賛せられたり

181

以上は是れ我々の豫想的なれとも一國の文字にして簡易ならば豈に敢て赤髮鬼の冷評を招きて之に屈し是に譲るの理あらんや今又我々は左記本居宣長氏の作りたる和文花のさためと題せるを新文字に改作して讀者諸君の一覽に供し度は山々なれとも一木板彫刻の招ふを要せざるを得ざるを以て左文の内〇〇を附したる文字を悉く新字ありと見做して思ひく、に諸君の白紙に試験せんことを希望す

花のさため

本居宣長

花はさくら、櫻は山櫻の、葉あかくてりて、細きかまばらに
 まじりて、花しけくさきたるは、またたぐふべき物もあく、
 うきよの物とおもはれず、葉青くて花のまばらなるは、こ
 よなくおくれたり、大かた、山櫻と云ふ中にも忘はぐのあ
 りて、こまかに見れば、一木ごとに、いさ、かかはれるとこ
 ろありて、全く同じきはちきやうなり一木ごと また今の世に、桐か
 やつ、八重一重なと云ふも、やうかはりて、いとめでたし、
 曇れる日の空に見あげたるは、花の色あざかならず、松の、
 青やかにまけりたるこなたにさけるは、色は江てことに見ゆ
 空きよく晴たる日、日影のさすかたより見たるは、にほひこ

よあくて、おなじ花とおほはぬまでなん、朝日はさらり
 夕ばはも、梅は紅梅ひらけさしたるほどを、いとめでたきを
 盛にふるま、に、やうくまらけゆきて、見どころなくなる
 こそ、いとくちをしけれ、櫻のさけるこままでも、ちること
 忘らで、むげににほひなく、ねびれをほみて、のこりたるを
 見れば、けにありて、世の中は、何事もみなかくこそと、見
 る春ごとに思ひまらるかし、白きはすべて香こそあれ、見る
 めは忘らおくれたり、大かた梅の花は、小き枝を、ものにさ
 して近く見たるを、梢おからよりはまさるれ、桃の花は、あ
 また咲きつゝきたるを、遠く見たるはよし、近くては、ひな
 ひたり、山吹、かきつばた、なでしこ、小萩、すいぎ、女郎
 花など、とりぐにめでたし、菊もよきほどにつくろひたる

こそよけれ、あまりうるはしくきた、かにつくりなしたるは、
 なかくに一志な、くはつかしからず、つじ、野山におほ
 くさうたるは、めさむるこ、ちす、かいだうといふもの、か
 らめきて、こまやかにうるはしき花なり、そもくかくいふ
 は皆おのかおもふこ、ろにこそあれ、人はまたおもふ心こと
 なるべければ、ひとやうにさだむべきわぶにあらず、又今様
 の世の人のもてはやすめる花ども、よに多ふかるを、かを
 へいてぬは、ことさらめきたるやうなれど、歌にもよみたら
 ず、ふるきものにも見えたることなきは、心のなしたや、な
 つかしからずおほゆかし、されど、それはた、ひとやうなる
 ひがこ、ろにやあらむ

斯の如く其の〇を附したる所へ自在に新字を挟み入るゝを得よ

か故に未だ深く學ばざるものと雖も頗る活用し得べし若し前文
 中おもひ或はなつかしの如く心に聞える語あらは心字に假字
 を添ふ可く墨晴春秋の語あらは日邊にもせは文字簡易にして
 文章通解し易からむ此他國語の歴史談新録詩雜文等を改記して
 諸君の一覽に供し度も亦下に前述せしか如く木石板に刻せむれ
 はこ、に之を掲記し難きを遺憾とす

因に記す前段の新文字を
草するに當リクシノフン
の如きは新文字の形状を
見悪くするにより讀者諸
君は以上の假字を用ゆべ
き所へ久士乃不无等を用
ゆるを可とす即ち新文字
に應用す可き文字を下の
如くするは可なる可し

- アイウエオ
- カキクケコ
- サスセソ
- タチツテト
- ナニ又子乃
- ハヒ不へホ
- マミムメモ
- ヤイユエヨ
- ラリルシロ
- ワヰ干エヲ
- 死丁氏片ソ

第十章 新文字が現在及未來に於ける實用上に関する点

本問題たるや實際の便不便に關係し且つ將來永久の利害に及ぼ
すべき問題なり故に我々は余が新文字をして之に答ひしめん平
必ずや其何人の眼光より熟覽するも其學び易く入り易きの点は
世界獨歩の好文字と謂はざるを得ざる可し而して是れ敢て我々
の誇言又は慢心の然らしむるところにあらずして今日我が學者
社會及實業社會に於ても一般公評の許すところなり

甲ハ曰ク新國字論ノ主トスル点ハ思想表白ノ法ヲ簡便ニスル
ニアリ細言スレバ文字ヲ學ブコトヲ容易ニシ文字ヲ讀ミ且ツ
筆スルコトヲ容易ニシ且ツ其意ヲ解スルコトヲ容易ニスルニ
在リ方今行ハルノ國字ハ數萬ノ漢字ト假名トヨリ成レルガ故
ニ千萬ノ語ヲ學ブノ困難ノホカニ千万ノ文字ヲ學ブノ困難ア

リ是レ彼ノ西洋人が二十六字ノ「アルハベツト」ノ發音ト綴字法トヲ學ベバ自由自在ニ語ヲ讀ミ且ツ筆シ得ル便ニ比ベテ著ク劣ルトコロナリ況ンヤ我國字タル漢字ニハ毎ニ一字ニテ音訓ノ二讀法アルガ故ニ一字ヲ學ブ毎ニ併テ其音及訓ヲ學ハサルヲ得ズ假ニ一歩ヲ讓リテ其字形ヲ學ブノ勞ハ綴字法ヲ學ブノ苦勞ニ等シトスルモ亦其訓ヲ諳スルハ語ノ意義ヲ會得スルニ外ナラズトスルモ常ニ音訓ノ三四ヲ暗記シ之ヲ讀ミ且ツ筆スルノ瞬間ニ機ニ臨ミ変ニ應ジ二者ヲ連用セザル可ラザル面倒ハ古今東西曾テ見ガル所ナリ例ヘバ(現)(乱)ナド云フ文字アリトセヨ現ノ訓ハあらはるナリ乱ノ訓ハみだるナリ余輩ハ之ヲ讀テあらはるみだるとシテ可ナル乎否必しも然ラザルナリ(現然)又ハ(治乱)ト熟シ又ハ現又ハうつゝ又ハ(胡乱)ナド場合ニ應ジ

テ讀ヨザルベカラズ夫ノ(矛盾)ヲほこと人又ハぼうじゆん或はぼうとんナト、讀ムモノアルノミナラズ天皇ヲ(てんこう)吳服太物ヲ(吳服)カイブツナント議場ノ笑柄トナルコト毎々之レアリ曾テ黒田侯ハ遵奉ヲ(そんぼう)ト讀ミ山縣侯ハ計畫ヲ(ケイカ)ト云ヒ松方伯ハ放棄ヲ(ほうき)ト云ヒタルコトアリ而シテ星代議士ハ手段ヲ(テカン)平岡代議士ハ軋轉ヲ(キバキ)高野代議士ハ義捐ヲ(ぎそん)其他此類頗ル多ク白面ノ書生ヲシテ高等官々親任官ノ失語ヲ喋々セシメ乳臭ノ學生ヲシテ浮華ノ言論ニ走ラシム是レ所謂行政學上ヨリ視察スルルハ官吏ノ尊威權ヲ輕カラシムル一端タラザルナキヲ知ランヤ彼ノ堂々タル共進會齋々タル開校式ニ於テ祝詞ヲ(シユクシ)ト發言シテ席末ニ冷笑者ヲ現ヒ軒旋ヲ(カンセン)軒輕ヲ(ケンテツ)ト讀ミテ一座ヲ

失笑會ニ導クコトノ如キ豈ニ漢文字ノ不消化ニ歸セザルヲ得
 ンヤ而シテ假令博士ト雖モ時トシテ猿猴ノ失脚河童ノ水クラ
 イ無キ能ハズ況シヤ平々々ル一般人民ニ於テオヤ只々前後ノ
 語調ニ依リテ其意味ヲ判断シ得ルモノアリ又先年東京某所ノ
 宴會ニ於テ工手學校ヲ(くてかくこ)幼稚院ヲ(ようがじん)繪畫
 共進會ヲ(エガキヨウシンエ)ト遣ラカシタル三副對ノ紳士アリ
 タリト之レ素ヨリ讀ムモノ、不熟練ナルベシト雖亦漢字ノ不
 規則ナルニ基カガルハナシ所詮我國ニテハ一語ヲ學ブゴトニ
 三段ノ勞苦ヲ經カルベカラズ音ト訓ト字形ト是レナリ而シテ
 時トシテハ一語ニシテ吳音漢音清音ノ數音ニ發言セラル、場
 合ナキニアラズ又語毎ニ數クモ三四様ノ異訓アリ甚シキニ至
 リテハ字形ハタ二三五六ヨリ八九十カアリ斯ノ如キノ不便

利ハ前古絶ヘテ見ガル所ナリ然ニ新文字ハ能ク此ノ諸弊害
 避ケテ秩序整然愛ス可キノ好文字ナリ云々

乙ハ曰ク我日本ノ新社會ニ於テ傳馬籠輿ヲ廢シテ馬車岡蒸
 ニ乘リ飛脚驛夫ヲ退ケテ郵便電信ヲ貴ガハ何ゾヤ而シテ法螺
 鎧冑ヤ馬標弓矢ヲ全廢シテ悉ク文明新式ノ輕装ヲ採用セシハ
 何ゾヤ然ニヒトリ不便ニシテ迂闊俗モ鎧冑弓矢ヲ要セシ昔時
 ノ如ク刀ヲ帶ビ弓ヲ持テ冠ヲ頂キ羽ヲ着シテ字典城ニ籠ル所
 ノ我々ノ通用文字ハ豈ニ遂ニ改良ノ必要ナキヤ我々ハ我が田
 圃ヲ耕作スル所ノ農夫ヲ見ルニ昨年マテ祖先傳來ノ舊法ヲ墨
 守シ來リシモノモ其在來不便ノ耕鋤器ヲ捨テ、成ル可ク新式
 輕便ノ改良犁ヲ購求セントスルモノアルハ何ゾヤ是レ全ク之
 ニ非レバ我々ノ勞力ヲ省キ波等ノ收穫ヲ増加スルヲ能ハザル

か為ニアラズヤ果シテ然ラン乎獨リ我々ノ最モ貴重ス可キ我
 腦田ヤ我等ノ學圃ヲ耕作シ教習スル場合ノ之支那朝鮮或ハ安
 南ノ如キ劣敗國が使用スル不便ニシテ無益苦荼タル文字ヲ使
 用セバ果シテ如何ゾヤ教育ノ普及實業ノ發達富國ノ策強兵ノ
 術ヲ望ミ得可キヤ如何是レ我々が漢字ヲ厭フテ而シテ新字ヲ
 歡迎セント欲スル所以ノ一ナリ

今試ニ我國中等ノ教育ヲ受ケタルモノヲシテ曲亭馬琴ノ稗史
 或ハ為永輩ノ戯作本ノ傍訓ヲ拂ヒテ後ニ之ヲ一瞥下ニ朗讀セ
 シメヨ彼等ノ十中八九ハ數行ナラズシテ誤讀シ若クハ殆ド讀
 過スルヲ能ハガルコトアラン其甚シキハ當ニ讀ム能ハガルノ
 ニナラズ其ノ意ヲモ明解シ能ハガル可シ即チ湯桶讀又ハ宛字
 推讀シ易カラザルモノ夥多アラン單ニ讀ム時ニ於テ不便ナ

ルノミナラズ自家ノ感想ヲ表白シテ之ヲ筆記セントスル時ニ
 モマタ屢々不便ナルヲ感ズ可シ例ハ其人普通以上ノ智識
 ルモ尚時トシテハ單ニ音訓ノミヲ記臆シ其字ヲ忘レタル
 リ字ハ記シタルモ音又ハ訓ヲ忘レタル場合ナキニアラズ後
 ハ尚忍テ可シ前者ノ障礙ハ豈ニ大ナラズヤ是レ又我々が漢字
 ヲ廢シテ新字ノ便ニ就カンテヲ欲スル第二ナリ

又試ニ印刷業ニ縁故アル人ハ近時ノ劣等ナル印刷物ノ原稿ヲ
 取リテ檢セヨ劣等ナル新聞紙劣等ナル雜誌ノ文章ノ如何ニ活
 版兒童輩ノ骨折ニヨリテ其不體裁ヲ敵ヘルコトノ多クキヤ原
 稿ノマ、ヲ印刷セバ衍字誤字ハ云フニ及ハズ(康熙字典)中ニ見
 出しガタキ文字甚ダ多クカラン又原稿者ヲシテ件ノ原稿ヲ朗
 讀セシメヨ彼等ノ十中五六ハ自家ノ綴リタル文中ノ語ヲ或ハ

誤讀スルナキヲ保セズ波等ノ或者ハ正音ヲ知ラズシテ漢字ヲ
 用ヒ訓ヲ會得セズシテ漢語ヲ用フルヲアリ況ンヤ字畫ノ如キ
 ハ間々推シ當ニ筆セリ苟モ新聞雜誌等ニ上ル可キ原稿ニ斯ル
 不體裁ノ事アルハ甚ダ奇怪ナルニ似タレ且翻リテ我が漢字ヲ
 檢シ其ノ真ニ學ビ惡キヲ思ヒバカ、ル不體裁ト不都合トハ自
 然ノ結果ナリト曰ハガルヲ得ズ而シテ此ノ自然ノ結果ハ國家
 多事トナルニツレテ益^ク其ノ量ヲ加ヘ來タラン今日スラ已ニ然
 リ我が未來多望ノ同胞又ハ新版圖ノ國人等ハ此ノ自然ノ結果
 ノ為ニ如何ナル大不便ト大不經濟ニ陷ラン假ニ大ナル不便ト
 シトスルモカ、ル面倒ナシ文字ヲ學習スル為ニ費消スル時間
 及之が為ニ勞スル心カハ實ニ無量ニシテ而シテ其ノ得ル所ノ
 モノト果シテ何物ゾヤ既往數千來ノ歴史ニ依リテ考察又ハ探

究スレバ如何ナル進歩ノ效能アリシ乎願フニ今日文明世界ニ
 於テ最大必要物タル左ノ發明諸件ハ華麗ノ形字難屈ノ意字ニ
 依リテ現出セシマ否ヤ

- 一 地球圓體の發明
- 一 蒸氣船の發明
- 一 電信器の發明
- 一 電氣時計の工夫
- 一 鐵道寫眞の工夫
- 一 印刷火薬の發明

今又左ノ諸氏ハ何が為ニ後世ノ尊信ヲ受ケツ、アルヤ而シテ
 彼等ハ漢字ノ如キ面倒ナル文字ヲ學ビテ其腦力ヲ費シタルヤ

葡「マセルラン」氏

英「フルトン」氏

佛「レガ」氏

英「ステフェン」氏

佛「ダギール」氏

普「ジョンゴツテンバル」氏

米「フランクリン」氏

普「スワル」氏

英「イルヤムマンドツク」氏

英「シル」氏

奥「スタイン」氏

斯ノ如キ大啓明家大經濟士大學者ハ何カ為ニ東亞ノ天地ニ生
出セザル乎彼等ハ何ヲ以テ世界ノ恩人文明ノ大動力タリシヤ
論ジテ茲ニ至レバ我が東亞ノ漢文字ガ如何ニ難屈如何ニ人生
ノ腦力ヲ徒勞傷害セシムルヤ知ル可キナリ然ラバ則チ以上ノ
如キ徒勞ト不便ヲ感じテガラ曾テ改善ノ策ヲ立テザル之ヲ忠
實ナル國民ナリト云フ可キ乎漢字ヲ大改正シテ一ノ新文字ヲ

創製スルハ此ノ徒勞ト不便トヲ一舉ニ掃蕩スル良策ニ外ナラ
ズ可シ是レ我々ガ新字ニ左祖スル所ノ第三ナリ

大語祝氏ハ曰ク世人若シ音字スナハチ新字ノ如キヲ採用セバ
音訓字ノ三様修業ヲ經且一語毎ニ此ノ三様ヲ暗記スルノ煩ヲ
脱シ單ニ音聲字若干ト各語ノ綴字法トヲ請セバアラユル語ヲ
筆記スルニ差支ナカル可シ又其語義ヲガニ會得セバアラユル
感想ヲ表白スルニ差支ナカル可シト

丙ハ曰ク我國從來ノ假名ト漢字ノ内最モ有用ナルモノヲ採リ
テ之ヲ綴字法ニスルハ文字ノ數ハ僅々二三百内外ニテ可
ル可シ即チ普通ノ國民ハ其二三個字ヲ記セバ讀ミ且ツ筆スル
ニ於テ自由自在ナル可シ

丁ハ曰ク新字ヲ用ユルト同時ニ内外ノ人名地名及物名等ヲ讀

ニなやみマトフコトハ全然一掃セラル可シ且ツRBLV等ニ對スル新假名ヲモ創製シ加フルニ至ラハ天下列國ノ發音ハ皆コレヲ表示スルヲ得可シ云々

坪内文學士ハ曰ク自然ノ必要ニヨリテ新字ノ流行ト共ニ普通文ハ次第ニ日常國語ニ接近シ來タリ隨フテ珍奇ナル漢語又ハ浮華ノ言論ヲ弄ブ弊ハ求メズシテ減少スベシ蓋シ音字ハ耳ニ訴フルヲ主ニスルガ故ニ聞慣レザル語ハ誤解セラレンノ恐レ有リ又全ク解シ難カラシムノ恐レアリ又杜撰ナル熟語ヲ濫造スルノ弊モ減少シ文章方シテ平易通俗トナル可シ而シテ文章語ノ國語ニ近クト共ニ文章法ト國語法トノ差別モ今日ノ如ク甚シカラズナリテ遂ニ外國ニテノ如ク文章ト國語ト全クハ同一ナラザルニモ係ラズ其ノ語格(ゲラムマ)ホトモ甚シカ

ラナルモノトナル可シ即チ二重^{ダブル}語格ノ不便利ヲ減削シ得可シ且ツ我國語ノ不便ハ單ニ文字ノ上ノコナラズ所謂文法ト國語法トノ間ニ大ナル逕庭アルコト及ビ文法ノ不整頓ナルガ為メ太古ノ文法近古ノ文章現時ノ文法ナド云フ頗ル辨シ易カラザル區別アルハ何シモ甚シキ不便ナリ近來新文法ノ起レルハ皆人ノ明ニ此不便ヲ認メタルニ因ル新國字論ノ此文法問題ニ及ボス影響ハ殊ニ注意ス可キ價值アル可シ云々

井上博士ハ曰ク今日ノ文章ハ兎角ニ漢字ノ為ニ掣肘セラレカ故ニ西洋ノ科語新語ヲ譯スルニ當リテ不安ト知リナガラモ已ニ漢譯アルモノハ之ヲ採用スルヲ例トセリ彼ノ(けみすと)リノ譯語ヲ(化學)トシ(じわめとり)ノ譯ヲ(幾何學)トセルナド皆漢譯ヲ重スルノ致ス所ナリ斯ル類例ヲ穿鑿セハ尚數多アルベ

之又場合ニヨリテハ學術上ノ科語ノ如キハ到底譯シ難キモノ
 多クシ然ルヲ或ハなま^{カミ}譯スルトキハ徒ニ解シ難ク讀ミに
 くミノミニテ何等ノ利便ヲ為サバ^ルノミカ却テ誤解ト臆測ト
 ヲ招クノ弊アリカ、ル語ハ寧ろ原音ノマ、用フルガ便利ナレ
 氏在來ノ慣習止ムヲ得ズ不妥ナル漢譯ヲ填シ若クハ漢字モ
 テ其音ヲ表ス彼ノ醫學上ノ科語病名ノ如キ是レナリ是レラハ
 生中ニ不都合甚シキ漢字ノアレバナリ若シ幸ニ漢字全廢セラ
 ル、ニ至ラハ蓋シ大抵ノ科語ハ原音ノマ、ニ採用セラル、十
 ル可シ總ジテ科語専門語ハ一聞一見シタルノミニテハ門外漢
 ニハ解シ難キモノニシテ而モ専門家ニトリテハ譯名ハ不要ノ
 モノ到底無用ノ長物タル漢語譯ノ廢セラル、ハ必然ナリ云々
 下ハ曰ク音聲字ノミヲ使用スルコト、ナラバ如何ナル場合ニ

於テモ振假名ヲ用フルガ如キ厄介ヲ脱ス可キガ故ニ筆記ノ手
 間モマタ大ニ減ス可シ^ス空間ノ上ヨリ論スル片ハ一語ノ充填ス
 ル場處一漢字ニ比シテ長大ナラントモ思レンガ(本篇ノ新字ハ
 漢字ニ似テ別段長大トナラズ)畫ノ多クキ漢字ヲ筆スルニ比セ
 バ其難易辨ヲ俟タガ^ル可シ加之字彙ヲ製スルニモ尤モ便ナリ
 上田萬年氏ノ所謂標準的國語ヲ精査シ且發音ト綴字トノ法ヲ
 正シ一々語言釋義ヲ附記シ而シテ日本大字典ヲ編成セバ豈ニ
 獨リリト^レ「エ」^アスト^ル等ヲシテ完備ヲ誇ラシムル^トアラン
 ヤ是レ將タ新國字ノ賜ナリ今日ノ如キ有様ニテハ殆ト完全ナ
 ル字彙ヲ得ルノ希望ナシヨシヤ完全ナル字彙成ル可シト假定
 スルモ字畫又ハ偏冠ニヨリテ引ク可キ漢字典ト音訓ニヨリテ
 引ク可キ音訓字彙ト此ノ二三種ヲ備ヘザル可ラザル不便アリ

要スルニ我國語ニハ兎角ニ二三重ホドノ不便纏綿シテ累ヲ為セリ之ヲ一掃センモノハ夫レ只新國字ナル哉云々

以上の評論中未だ我々の新文字を一見して而して論評したるにあらざるものありと雖も諸氏が曾て豫想せしところの過半は即ち余が新字なるべし況んや余が年來苦心せしところのものも諸氏と同感たるどころ多々之れあるに於てを也是れ余が茲に余が余の新文字に於ける實用上につき諸氏の高説が暗に符合せる点々を摘記して世の公評を仰がんとする所以なり

第十一章 新字の國學上に於ける關係点

本問題たる其の國學上の關係とはすなはち日本語の運命に關せむやとの老婆心ならん果して然らば他の純乎たる音字論者が或は一種新奇の文字を以て悉く根本的の革新を行はんと欲するときは或は日本語の運命に關連するところ無きに非る可しと雖も余が創製の新字に對しては是等の心配を要せざるべし何となれば我々の工夫せし新文字たるや日本語を表白するに最も適當最も便利なる在來の假名と漢文字の長所によりて案出したるものなればなり

或る人大に我々を難して曰く足下の文字たるや一種獨得の妙所無きにあらず然れ共國語及び國字の特質は其國民の智力上に於ける獨立を表するものなり國語のことは云ふに及ばず國字の如

きも種々複雑なる遇會を経て今日に傳れるものなれば多少國粹の保存する所ならずや字形の如きはしばらく措くも其假名遣綴法の如きは輕忽に改めて可ならず可きや必す稽查すべき要ある可し音声字論者の本意よりいへば漢字の声韻はいふに及ばず我が國語の假名遣も己むを得ざる必要なき限りは總て同綴字に物せんこと勿論の目的なるが如し是れ所謂 Phonetic Spelling (音綴字) の説を我が國語に應用せん宿志にあらざる乎と

余ハ之ニ答ヒテ曰ン國語及ビ國字ノ特質ハ實ニ論者ノ言ノ如ク其國民ノ智力上ニ関スルヤ甚ク廣大イト無邊ニシテ生中無識見ノ學者カ却テ察シ兼ルホトノモノナリ故ニ苟モ一國ノ國威ヲ張り智力ヲ振ハント欲スルモノハ誰シカ其國字ノ失点ヲ改正スルニ躊躇スルモノアラシヤ是レ余ハ在来不便ノ漢字ヲ

便利ニ改メ而モ其假名遣綴法ノ如キハ轉活應用シ得んゴト自由自在ニシテ之ヲ以テ本居宣長村田春海等ノ和文ヲモ記シ得可ク平田篤胤中井竹山等ノ雜文ヲモ書シ難キニアラザル可シ豈ニ敢テ主音綴字ノ説ニ偏執スルモノナランヤ

或る人又曰く足下の新文字たるや全然音字たらざるべしと或も之を一の音声字と見做さざるを得ざるべし然れば足下の新字に就き精細の反駁を試みんとするも何の不可かあらん彼の主音綴字論は早く歐米の語學者間に唱へられきことは歐洲の如く本来の音字國にありては直に美斷せらるべきに今尚實行の緒に着ぬは如何なる故ぞといふに其の重なる故障は語原に関する利害なり例へば Europe の發音俗には DUP なるに之を六音に長く綴るは極めて無用なることに似たれど DUP と改むると同時に Europe

と云ふ語が二個の希臘文字(廣)と(面)とより來れるの史は滅却すべし猶(Cham)の古字はChamなりしがJamと主音的に綴らるゝに及びてChemすなはち(嚙)と同語原たるを忘られたるが如し英米又獨佛の語の如きは本來表音字に物せられて人皆音に慣れたるべければ少しく綴字法を改むるも大なる不便は無かるべきに尙且語原學者は口を極めて語原滅却の害を唱へ種々の点より觀察して抗論せんとす彼等をして我國語と音声字との關係を談せしめば何とかいはん我假名遣と語原との關係は暫く措くも從來主と目によりて記せられたる支那文字が俄に一変し主音綴字に物せられん時其結果如何なるべきぞ支那語は同声に富みたるだけに其語原を探りかたきものとならん今日は意字を見るが故に語源典故等を知るも知らぬも(備を作る)胡越の如し(亡羊の歎)單刀直

入(陳勝吳廣)張三李四など云ふ熟語成語等に會する毎に多少明白に其意義を認む然れども主音綴字に物せられなば此等の如き隱喻と引喩は悉く没餘韻の語となるべし隨ひて誤解濫用の弊も殆ど測るべからざるものあらん

語原を知るなとはフト思へば専門語學家にのみ要用なるが如しと雖も語原を知るの必要はむしろ一般採録者の上にもあり蓋し語原を明にするは語の真義を明にするなり修辞學上よりいへばProprietyとPrecisionとを全うするの階段なり然るに只音声のみに依頼して無數の語を學ぶことゝなれば我國の如き多同聲の國語に於ては或は(判然)と(憫然)とを混同し(無理ならぬ)を(無理からぬ)と云ふが如き間違の外に尙夥多の有害なる濫用を生出せん方今我が青年者流の手に成れる雜誌上の文章を檢すれば彼等が才

思餘りあるも間々詞藻に貧なるあり或は彼等の速成なるや語に貧ならざるも字に貧しきことあり蓋し彼等の語を學ぶ耳よりするもの多ふくして目よりするもの少し否語義を精しく解せざるに依るこゝに於てや典故のひきちかひ引喻の不妥當熟語の杜撰衍字誤字等屢々瑕疵となりて其の文を汚す若し夫れ衍字誤字の失は主音綴字によりて除くを得べきも他幾種の疾病は音聲字の行はると共に幾倍ならん何となれば漢語の領しがたき度は漢字を廢すると共に幾層を加ふべく而して漢語全廢説は到底行はる可きものにあらざるなりと

余ハ此ノ精細ニシテ博通ナル質問ニアツカルモ之ニ答辨スル事易々タルコト、思ヒリ何トナレバ論者ハ例ヲ歐米ノ語學者間ニ唱ヘラレタル主音綴字論ヲ引用シテ音字ノ非点ヲ云々シ

(尤も余が説は純然たる音字又は全無漢文字を廢するにあらざるれども)或ハ漢字ノ熟語成語ノ如キハ倒底改正スルノ見込ナシレバムシ口漢字ヲ保存スルニ若カズトノ意見ニ過ギザレバ也如何ニモ彼ノ言語學者ヨリ見ルトキハ歐洲ニ於テ現今使用スルトコロノ音字ニモ非点アラシク然レバ獨佛米ノ文字ハ早已ニ其ノ綴リ方ヲ改ムル可シトノ一点ナルガ如シ然ラバ則チEUDORAト慣用シ來リタルモノヲ強テSSOト改正セザル可ラザル点何レニ存スルヤ且ツ彼等ハ既ニ已ニ簡便ナル音字國ニアラズヤ而シテ彼等ノ國民ハ之ガ為ニ幾多ノ不幸ヲ醸シツ、アルニアラズ然レニ翻テ我國ヲ見ヨ所謂國字ト曰ヘバ僅々タル五十音平假名ノ外悉皆漢文字ニシテ其數モ又幾万幾千ト云フホトニアラズヤ而モ其文字ノ野蠻的不規則タルヲ決シテ文明ノ友開化

ノ民が用フ可キモノニアラザル点多々之レテんニアラズヤ然
 ラバ之ヲ改正シテ余輩が新字ノ如ク草木魚鳥火水土金等ノ類
 別ヲ學理的ニ立テ之ヲ綴ルニ國語ニ適當ナル音声字ヲ活用セ
 バ豈ニ至便ノ次第ナラズヤ是レヌハ千其ノ偏冠トナル所ノ
 母字ハ我々ノ目ノ為ニ十分ナル効用ヲアラハシ其音字ハ即チ
 我々ノ耳ノ為ニ働キヲ為シトコロノ好文字タル可シ之ヲ以テ
 其語原典故等ヲ知ルニモマタ非常ノ好都合ニシテ波ノ(胡越の
 如シ)ト書ク可キトコロヲくにかまへノ中ニ片假名ノコ字ヲ書
 入レタル文字一個トエチノ二假字ヲ記シタル文字一個ヲ用ヒ
 ナバ未ダ深ク國字ヲ學バザル尋常小學四年生ト雖モ是ハ此レ
 (コ國トエテ國)ノ事ナルベシト考察スルコトヲ得ベシ
 然ルニ現今ノ漢字ノマ、ニテ初學ノ人普通ノ民ニ示サバ其所

謂胡越トハ果シテ何物ナル乎胡瓜ノ一種ニアラザルナキヤト
 こいつニ閉口セン又陳勝吳廣トハ何等ノ意義ナルヤ戰陣ニ勝
 利シテ領土ニテモ廣マリタル事ナルヤ否薩張解レ難キニアラ
 ズヤ然ルニ若シ我々ノ新字ヲ以テ「チン」ナルニ文字ヲ偏ニシテ
 氏ヲ附シ又人偏ニ「レヨウ」ノ三假字ヲ綴ラバ是レ亦簡便ニシテ
 「チン」レヨウトハ人物ナルコトヲ確知シ易カラシ(其他類推セヨ)
 故ニ若シ將來此ノ如キ新字ヲ採用スルニ至ラバ從來大ニ學童
 及學者ノ脳髓ヲ痛メタル古實引喩ハ今ヨリ一層簡便一層面白
 ク勉學セラル可キナリ論者が懸念スル所ノ誤解濫用ノ弊ハ一
 切減滅シテ語原ヲ知んコト必ず易々タラン而シテ是レ修辭學
 上ノ Propriety + Precisionヲモ全クスルノ階段タルニアラズヤ
 然ルニ只蒙々タル野蠻ノ時代ニ造ラレタル漢文字ニ依頼シテ

無数ノ語無邊ノ學問ヲマナガキハ淺學者ハ蛤蜊蝙蝠蟾蜍等ヲ
出類ト心得躑躅牡丹天木蓼杜若石竹等ヲ何ト認ム可キヤ而
苟モ學者クランモノハ斯ル文字ヲ愛シカ、ル文字ヲ使用シテ
コレニ満足シ得可キ乎

顧フニ今日青年者流ノ手ニ成レル雜誌上ノ文章ヲ一見スルニ
被等ハ我々ト同シク其才思餘リアルニ拘ハラズ詞藻ニ貧ナラ
ザレバ文字ニ貧ナリト評セザルヲ得ザラシムルハ一ハ被等が
多年ノ苦學モ未ダ到ラザル所口之レ有ル可シト雖モ又漢字ノ
難屈不便ニシテ杜撰ノ文字濫造ノ語(蓋シ般々慣熟スレバ巧妙
ノ成語熟語ナリト我々ハ心得ルゾいとオカシ)屢々瑕疵トナリ
テ被等ヲ苦悩セシムルガ為ニアラズヤ若シ夫レ衍字乱字粗字
古字妄字畧字同字難字奇字怪字等ノ失点ハ漢字刪減論ニヨリ

テサレク之ヲ除キ得ヘキモ其大半ハ尚殘存スルノミナラズ他
幾種ノ欠点ハ漢字ノ流行ト共ニ流行セン何トナレド漢字ノ解
シ難キ度ハ漢字普及ト共ニ幾層ヲ加フ可ク而シテ漢字保存説
ハ到底國家前途ノ最大不利益トナシ可ケレド也

或る人尚ほ憂慮して曰く吾人が新字を非とするの点は以上の外
數点なきにあらず例へば言語は是れ一種の小國史なり而して音
声字は此小國史を破却するの恐れなきにあらず恐くは音声字の
流行すると共に外國語と日本語との別は一見したるのみにて見
分けがたきた至らん其の學者たる某氏曾ていへらく英國上古の
史は或る遇會によりて全滅するをありとも此の英國語の存在せ
んときは其語言を釋ねて過去を繋繫する必しも難からず「サクソ
ン」人の消長ハルマシ人の盛衰彰として國語上に跡を印すと是れ

或は専門語學者が誇張の言而も其の一分の理は否む能はざるべし所詮語原論も新國字に關係せる一の大切なる問題なれば新字論者の論鋒も未だ薄弱ならむやと

余輩新字論者ハ或人ノ詰問ニ了ラテ益々新字ノ効用ハ大々好處アリト信セザルヲ得ズ何トナレバ我々ハ我日本語ハ此新文字ニヨリテ益々國民ノ多数ニ普及セラル可ク而シテ新字ノ採用ト共ニ國語ニ精通スルモノ多々益々輩出ス可シト信ズレバナリ現今ノ如ク學者ト云フ學者ハ悉ク漢字ニ眩惑シ華語ヲ專攻スル世ニアリテスラ國語ノ價值ハ下落セザルニアラズヤ況ンヤ新字ハ徒然草ノ如キ古語ヲ譯スルニ甚ダ便ナルオヤ而シテ彼ノ(ランア)ヲ爛燈(アカシヤ)ヲ明石屋ナド、牽強附會スルヨリ一ハ貝偏一ハ木偏ニ依リテ書スルコトノ如何ニ簡單明瞭ナル

ヤ識者ノステニ大賛成スルトコロナリ
斯ノ如ク日本語ニ無カリシ名詞或ハ學術上ノ科語ハ新文字ノ有ント無シトニ拘ラズ是レ又採用セザンベカラザルハ我國上古ヨリノ慣習ナリ然レモ我々日本人ハ這々々々ハ又独立然
独歩ノ君子固ニアラズヤ而シテ更ニ大ニ舊弊ヲ洗除水穂ノ新世界ヲ造ラザン可ラサル我々ニアラズヤ且ツ我國上代ヨリ文字ノ変遷ヲ穿鑿スレハ彼ノ神代ニ行レタリトイヘル文字ハ漢字ノ輸入マラレタルト共ニ悉皆廢止セラレテ國粹保存ヲ唱フ
し明治ノ御代ニスラ跡ヲタモナキニアラズヤ英國ノ學者ガ曰
一ルガ如ク我々ハ保証シ我日本人ガ在ラン限りハ漢字ノ有ん
ト無シトニ拘ラズ千代ニ八千代ニサレ名ノイハホトナリテ
吾ノムレモテ我日本語ハ我國家ト共ニ存続ス可シコシテ我々

ノ日本語ハ矢野氏が其文体文字新論ニ於テ述べタルが如ク他邦ノ語ト甚ク特異ノ矣アルニ於テオヤ

矢野氏は曰ク余カ伊太利に遊ビ一時同地の一士人と談話偶々詩歌ノ事ヲ及びけむは余ハ日本の歌謡ガ子母音の一聲のみなることヲ語リ一に其の人頗る考へ居たり一が余ニ向テ曰ひけるは唯子音母音の一種の聲のみならずは調子亦同一く優き易からしむるの患なきや伊國の歌杯は聲の種類甚だ多きが故に調子の種類も亦た多し聴者の耳ニ甚だ面白きなり詩歌ニ用ひては日本の土語は調子のかわり難き(モノトニテラス)缺矣ある様ニ考ふるが如何にやと余も此答ニは難治一たりきなり実ニ此人の説の如く日本の歌は常に子音母音の訓のみなるが故ニ毎句の語尾は何れも皆「アイウエオ」の五母音ニて終らざるもの

なし早く云へば諸語共に皆な同様なり是を以て日本の歌は別に支那西洋の詩歌の如く韻を履むに及ばず唯聲の数を揃へ五文字とか七文字とかに為せば充分なり能く注意すれば樂器に合はせる我歌は皆訓の聲(土語)のみなり若し一聲にては音の聲(種類の異なる一聲)を雜ゆれば必ず其工合あしきを覺ゆる也

日本ノ歌ハ勿論其土語ノ如キハ平長ノ声ノミ多クキガ故ニマコトニ優ニ柔カナル長所アリ其ノ換リニハ又急促ナル調ヲ生スル能ハガルノ短所アレトモ此ノ柔ニシテ優ナル点ハ決シテ滅ス可ラザル國體ノコモルトコロナラン而シテ新字ニテ和文和語ヲ學ブノ便利ハ漢字華語ヲ真似ルヨリモ便利タル点ハ已ニ前回ニモ述べタルが如し然ラバ則チ我々ノ新字ハ日本ノ小國史ニシテムシロ是ヲ擴張シ之ヲ保存セザル可ラザル特効ヲ

有スルモノト断言シ得可シ

然ルニ世上ノ論者ハ音字或ハ新文字ニ向ヒ國語ノ轉記シ變遷
セシ乎ヲ説キ又ハ雅言ト俗語ノ混同センヲ憂フルハ豈ニ少
シク逆上機嫌ノ談ナラズヤ假令我々ノ新字が將來若シ社會ノ
喝采ヲ博シ天下ノ流行ヲ來シコトアリトスルモ我が上流學者
社會ニ於テハ文語ノ嚴然タルアリテ始終國語ノ標準ヲ指示シ
語ノ雅俗ヲ辨セシメ得ルコト今日ヨリ一層便利ナルニ至ラン
其故如何ニト云フニ今日我文學社會ハ殆ド漢字華語ヲ以テ滿
タサレツ、アリト虽モ尚且ツ雅言俗言文章語等アルニアラズ
ヤ然ラハ新國字ハ如何ニ國內ニ普及シ大ニ流行スルモ其ノ俗
語ト接近混同スルハ普通文ニ於テ然ルノミ如何シ雅言ヲ滅却
スルコトアリランヤ故ニ我々ハ我が新字ノ流行ハ其ノ文字簡單

其ノ意義整然タルノ便利ニ依リテ大ニ日本ノ文海々實業界ヲ
裨益スルモノタルヲ確信セガルヲ得かんナリ

第十二章 國文學上に及ぼす可き影響

これ我が國文學に及ぼす可き影響の如何に關する問題なり而して是れまた非新字論者の堅城なりとして依頼するところのものなり勿論本問題に對しては我々か有効無類とする新文字と雖も一二の非点なきにあらざるべし然れども之を以て悉く新文字を破壊するに足る價值あるにや否や至りてハ大に讀者諸君の公評を望まざるを得ざるなり

或る文學者は曰く新文字の如き果して我文學海に採用せらるゝ時は其詩文章に及ぼす影響の一は我國の語原問題に密接す他なし語言を知るは其語に含まれたる一種の詩趣を解すると同義なるに音声字に物するときは言外の餘韻殆んど悉く減ふと云ふこと是なり例へば彼の花弁の名を見よ 鷄頭花 女郎花 牽牛花 燕子花

木蓮などは實用上より見れば甚しく不便利なれ詩文に用ふると
 きは多少言外の餘韻を表示す何となれば彼等は皆隱喻なればな
 り其他、洋々、溜々、銜々、皎々、燦爛、嬋妍などの如きも言外の餘情ある
 は音聲綴字の比にあらず我輩が従来の経験に徴するに或程度ま
 で學習したる後は漢字は案外に推知し易き文字なりこれ三宅雪
 嶺氏も其の(漢字論)中に公言するところ字彙にも師にもたよらず
 して自然に學び得たる漢字の如何に多きかと思へばいかでか漢
 文の不便を云々するを得んやと

我々の知る習慣ハ天性ノ如ク我々ノ性癖ヲツクンテ今我々
 ハ漢文字主唱者ノ説ヲ聞ク毎ニマタ此ノ感ニウタル思フニ彼
 等ハ實用上ヲ第二トシテ切ニ詩趣的或ハ隱喻ノ言ヲ好ムコト
 狂スルカ如キニアラズヤ如何トナレバ其所謂詩趣的又ハ隱喻

的ハ我々ノ漢字ニハ餘リ多量ニ含蓄シアルガ故ニ往々法外ノ
 隱喻多ク意外ノ詩趣アルニ閉口セザルヲ得ザルガ如キ文字
 甚か多クケレバナリ例ハ花卉ノ名ヲ見ヨ女郎花、燕子花ナラ
 ハ或ハ不可ナシトスルモ紫羅爛花、糝斗菜、柳穿魚、小速翹、紫雲英、
 射干ノ如キニ至テハ隱喻モマタ甚シカラズヤ而シテ是レ將夕
 博士ト雖モ讀ミ難キ和訓アルニアラズヤ然ラハ一般普通ノ民
 タルモノ爭カ之レヲ通解スルテ得ンヤ彼等ハ果シテ草花ナ
 ルヤ動物ナルヤ字典ヲ開キ字引ヲ待テ而シテ尚ホ疑ヒナキ能
 ハカルナラン斯ル詩趣的ニ傾キタル文句ヤ名詞ヲ愛スルニ限
 リテ必ズヤ學術上ノ意義少シモナク植物學ノ分類ニ不明ナル
 ハ方今漢字國ノ通弊東亞ノ民ガ流患ナルニアラズヤ其他洋々
 鐘々燦爛ナド云ヒル語ノ如キモ其意義ノ外ニ餘情アリトテ大

= 漢字ヲ稱賛スルモノアリト雖モ我々ノ新字ナリトテ何ゾ此
 ノ餘情ナカラシヤ其意ノ外ニ声ノ外ニ又慨シテ字形ノ外ニ一
 種特得ノ添物アリテ讀ムモノ、詩思ヲモ動カシ學理ヲモ開泰
 セシム前例ニ於ケル「夕ウ々々」ニ水偏ヲ附シ「ヨウ々々々」ニ金偏
 ヲ添ヘ「カンラン」ニ火ヘンヲ附シ「コウ々々」ニ白偏ヲ加フルハ
 水金火白ノ文字ハ一種曰フベカラザル風韻ヲ添フルニ非ズヤ
 (第九章参考)好シ一步ヲ讓リテ斯ル(ほまち)ノ如キ風韻ハ曰フニ
 足ラズトスルモ其意義ヲ認知スルニ秩序正々トシテ非常ノ便
 利ナルヤ明白ナル可シ然ニヒトリ詩趣的風韻アリトテ漢文字
 ニ戀々タルト何心ズヤ彼ノ英語中最餘韻ナリト稱スル **ALIASI**
rugged soft smiling ナドノ如キハ我々ヨリ一見スルトキハ
 擬声又ハ準擬声ヨリ來リタル風味タルニ過ギズ然ラハ英語ノ

如キト如何ニ詩趣ニ乏シク風韻コレナキハ豈ニ驚ク可キニア
 ラズヤ然レモ英米ニ詩人ナキニアラズ却テ有名ナル大詩人ニ
 乏シカラザルニアラズヤ彼等ハ殆ンド迷想ニ陥リツ、アル我
 が東亞ノ漢字學者ヨリ活潑ナル思想ヲ有シ深遠ナル雅想ヲ有
 スルモノ多ク之レアルニアラズヤ
 我々ハゴ、ニ大ニ將來ノ爲メ慷慨且ツ憂慮セザルヲ得ザル點
 下リ他ナシ我々ト既往ニ於テ漢文字ノ詩趣風韻或ハ野卑思想
 ナル文字ヲ學習練磨シタルガ爲ニ其半生ノ智識ハ單ニ粗雜タ
 ル文學的ニ傾キ而モ甚カ不順序ノ學海ニ浮沈シ多年ノ苦學モ
 徒ニ赤髯男子ノ冷笑ヲ招クニ過ギザルコト是レナリ例ハ漢
 字中たからノ和訓アル文字ヲ撰抜スレハ殆ンド三十有餘字ア
 リ即チ左ノ如シ

寶 貨 貝 財 鈺 珍 寶 貨 貨 資 錢

賭 錯 昨 賅 賍 賄 賂 賄 賂 賄 賂 賄 賂

賄 賂 賄 賂 賄 賂 賄 賂 賄 賂 賄 賂

又夕和訓ニテ(たま)ノ名アル文字ヲ集ルルハ殆ド一百四十有三四字之レ有リ今其ノ普通ナルモノハコトヲ舉ケレバ左ノ如シ

玉 珣 珠 環 璽 球 琉 壺 琳 璧

更ニ其ノ最モ奇ナルモノヲ記スレハ玉偏ニ舟軍弟叔羽蚤等ヲ

附シタル文字アリ是等ハ其一見セシ所ニテハ必竟何等ヲ意味

スルヤ何か為ニ羽ヲ附シタルヤ蚤モ亦玉ニ附シテ何等ノ意義

ヲ有スル乎奇々怪々ノ感ニ打タレザルナシ

其他玉偏ニ合向季治皇春危曾無炎師敬蜀者其典包君公玄甲川

分平居屈於穿唐漢勞究等ハ皆是レ(たま)ノ名ナリ而シテ其ノ類

憂 燾 獻 ヲ 添 フ ル 亦 皆 ナリ (たま) ヲ ヲ ガ ル ナ キニ 至 テ ハ マ コ トニ 倦

キレ寶ニ嘆セサルヲ得サルナリ

是ニ依リテ之ヲ見シハ中古ノ頃漢字ヲ増製セシ學者ハ如何ニ

太平樂ニシテ如何ニ詩趣的ニ傾キタルヤ而シテ如何ニ悠々夕

ル餘暇アリテ如何ニ風韻ニ耽リシ乎將夕又如何ニ奇想ニ富ニ

雅趣ニ傾キタリシヤ今人ノ豫想外タル點アリシナラン然レモ

貝類ヲ以テ(たから)物トシ貝偏中ニ二十餘個ノたから文字ヲ創

作シタルヨリ推スルハ餘リ奇思議ノ域ヲ脱シテ其初雜無學ニ

シラムレ口甚ク玩弄的ノ文字ナルニ一驚セザルヲ得ンヤ

聞ク上古野蠻未開ノ人民ハ貝類又ハ玉石瓦片ヲ通用シテ流通

貨幣ト為セリト方今南洋土人及諸洲ノ土人ニ尚ホ此事アルヲ

以テ考察スレハ我々漢字國ノ人民ガ詩趣風韻ニ富メリト誇稱

又ルトコロノ文字ハ果シテ蒙昧時代ノ野蠻社會ニ於テ學問ノ
 區域甚カ狭ク人間ノ腦力イト、幼稚ナル時ニ出來シタル不完
 全極リタル文字タルヤ一点ノ疑ヒナカル可シ
 嗚呼故アル哉旨アル哉漢字ノ所謂熟語ナルモノヲ詮議スレバ
 先ツ貸借、賂貨、資本、貿易、貯蓄、祝賀、家賃、負債、貢上、下賜、賞典等ヨリ
 質問、贊成、賂賄、費用、賄賂、股販、賦稅、賄賂、賣買ノ如キ或ハ貴人
 賤夫、責任、賓客ノ如キ亦皆ト貝偏ヲ以テ表示セザルモノナキコ
 トヲ甚シキニ至テハ負女、貧民、盜賊、貧婪、果テハ贈賄、賢人ノ如キ
 スラ貝偏ヲ附着セルニアラズヤ斯ノ如キ奇談怪事ヲ一々例証
 スルトキハ千紙ヲ重ネ萬葉ヲ染ムンモ尚ホ足ラサルコト有ル
 可シ然ニ東亞ノ我々ハ我々ノ習慣上ヨリ見テ以テ之ヲ好文字
 トリト主唱シコレヲ教習シ是ヲ鍛鍊シテ而シテ世界ノ雄邦宇

内ノ大國タランコトヲ希望スルハ豈ニ深ク志想ノ極ニ達シツ
 ンアルニアラサルナキ乎

第十三章 新字が國俗の過去に對する關係

新文字の國俗に對する關係にして是れまた新國字を排斥する所の理由として漢字論者が依頼するところの隠顯架砲たり故に我々は本問題に就ては我々の讀者諸君に對ひ果して漢字論者の此奇砲が新字論者の新砲を破砕するに足るや否やを考究せられん事を希望せざるを得ざるなり

某氏あり曾て漢字を主唱して曰く人の智識は現代に限るべからず既に千古祖先以來爲し來る事實は知らざるべからざるところ又知らんことを欲すべき所なり我の史ある也記するに漢字を以てせるもの十に八九なり中古以後間々傍ら假字を用ゐしものあり蓋し寡々として數ふるに足らざる其他は則ち奈良平安の古より中ごろ北條足利を経て下近世徳川の時に及ぶ國史私記公文典冊

は勿論乃ち文華詞藻未本草双紙雜著漫筆の瑣屑に至るまで苟も
事の餘載を具ふるものにして漢字を用ゐざるものはあらむ古を
考へ往を徴するに志あるもの漢字を知らずんば渡るに舟筏なき
か如きことあらんか云々

余輩ハ之ニ答ヘン人間ノ智識タルヤ既往及現代ニ限ル可キモ
ノニアラズ進ミテ將來ヲモ考ヘザンベカラズ既往千古祖先以
來生出シタルコトト單ニ漢字ニアラザレバ知り得ベカラザル
トノ論理ト事實ハ我々ノ發見シ兼ルトコロナリ我々ハ只信屈
ナシ文字ヲ簡便ニ改善セバ人ノ智識ハ益々廣ク既往千古ノ事
ハ論ナシ現代ニ處スルノ道或ハ百工千業ニ涉ルノ道ヲモ研磨
シ得可シト存ズルモノナリ好シ一步ヲ譲リテ我國ニ於テ漢字
ニ非レバ既往千古ノ事實ヲ知り得ベキモノニアラズトスレバ

漢文字ノ輸入ナカリシ時代ハ盡ク知ルベカラザリシ乎何が為
ニ我々ノ祖先ハ自國ノ發明ニカ、ル神代文字(假に傳説に依る)
ヲ捨テ、漢字ヲ採用セシカ而シテ又漢字ニ満足セズシテ更ニ
日本特得ノ和字ス十八千山偏ニ上下木偏ニ神ノ如キ文字及ヒ
いろは五十音等ヲ新造セシヤ是レ果シテ不便ノ事物ヲ棄テ、
便利ノ事物ヲ採用スル人間進化ノ順路ニアラズヤ
翻テ世界各国ノ盛衰興亡ヲ窺ヒ文化ノ進不進ヲ視察スレバ各
國及々トシテ新造且ツ便利ノモノヲ採用スルニ銳意セザルハ
無シ而シテ能ク之ヲ活用シコレヲ教習スルモノハ彬々トシテ
興起シ然ラザルモノハ衰敗ニ歸セザルナシ支那ノ如キモ其ノ
命脈ヲ現代ニ保ツ所以ノモノハ上古結繩ノ不便ニ換フルニハ
卦ヲ以テシ(八卦ノ變爻六十四ハ即十六十餘ノ音字ナリ)後世

ニ至リ之ヲシモ全廢シテ形字ヲ造リ大家小篆ヨリ漸次ニ簡易ノ文字トナリ果テハ方今音字國ト競争セザルヲ得ザルニ至リ是レトテモ大不便ナリトシテ喋々スルハ決シテ故ナキニ非ル可シ而シテ我々ハ不肖ナガラ或ハ學者然トシテ文筆ヲ弄シ或ハ官吏氣取りテ公務ニ當リ或ハ實業家將タ政治家氣取りテ深ク社會ノ真否ヲ探查スルニ種々ノ遇會難多ノ出來事ハ常ニ我々ヲシテ漢字ノ大改正ヲ催促シ新字ノ運動ヲ活潑ナラシメガルハナシ是レ我國新來ノ事物ハ年々相増シ歳々相加リテ到底漢字ノ如キ不便且ツ迂濶ノモノ、及バ可ラザルモノアルニ因ラズンバアラス假令我國ノ既往ニ於テ上ハ國史私記公文典冊ヨリ下ハ雜記小説草双紙ニ至ルマテ苟モ事ノ臆裁ヲ具フルモノニシテ漢字ヲ用ヒザルモノハ無カリシトハ曰ハ既往ト現代トハ別々ノ社會ニシテ現代ト既往トハ同一時代ニアラザルナリ時代已ニ同シカラズ如何ゾ同事物ノミナランヤ古事記ニモ幕記ニモ見ヘズ穢多村カラ議負ヲ選出し百景ニ一ツ添フ海軍ニテ富士見トハ豈ニ是レ時勢事物ノ變遷オドロク可キ点ニアラズヤ親知ラズ子知ラズ今ハ人知ラズトナリ暗カリシ昔シラシンプトナワテ知レトハ寒村僻地ニ居住スル頑々タル舊弊ノ大藥罐ト虽モ多少察知スルトコロニアラズヤ故ニ方今明治ノ御代ニ生レシナガラ徒ラニ物識然トシテ一ニモニモ漢語ヲ轉リニニモ三ニモ漢字ヲ用フレハ遂ニ左ノ如キ迷惑ヲ醸シコト幾田ナルヲ知ルベカラス

○第六〇五七號

和文電報ノ受信人及發信人ノ所名ハ本文同様片假名ヲ

用中若し本字ナレバ振假名ヲ附し字跡明瞭ニ記載ス可
 キ規定ニ有之候處近來單ニ本字ノ三ニ止メ片假名ヲ附
 セズ或ハ容易ニ判別シ難キ草書ニテ記載ノマ、賴信ノ
 向有之為ニ取扱上甚ダ手数ヲ要スルノミナラズ延テ傳
 送上誤謬ヲ醸シ遲滞若クハ誤達ノ虞不尠ニ付爾後ハ必
 ズ右ニ依リ記載發送相成度旨郵便電信局ヨリ申來候旨
 其筋ヨリ申越候條注意セラル可ク此段及移牒候也
 明治二十九年十二月八日

以上は是れ方今明治の社會を迷惑せしむる實事にして幾多の小
 說的珍事を演じたる結果なりと謂はざるを得ざるべし此の他我
 々は漢字の佶屈不便なるが爲に奇談に遇ふことまた幾回乎を知

りお然れども豊裕なる學費と貴重なる光陰を拾萬時間以上消費
 して漢字を練習したる明治の文學家は或は曰く漢字の効能たる
 や支那に在ては詩書經子の舊より汗牛充棟五車二酉篇籍の富萬
 億を以て數ふと至も苟も漢字を學び讀んで而して會すべからざる
 なく我邦に在て普通修得する漢字の智識に依るも亦甚だ理會す
 可らざるの困難あることなし漢字の東洋智識に於ける其用の廣
 くして且つ便に實際欠くべからざる者に屬する此の如し云々
 嗚呼是レ何タル大言壯語ゾヤ漢字ノ東洋智識ニ於ケル其用ノ
 廣クシテ且ツ便ナラバ何ガ為ニ東洋ノ我々ハ切ニ西洋ノ智識
 ヲ輸入スルニ汲々タルヤ汗牛充棟五車二酉篇籍ノ富萬億ヲ以
 テ數フ程ナラバ何ヲ以テ彼ノ大韓ノ策士清朝ノ豪傑ハ常ニ歐
 米ノ智識ニ蹂躪セラル、ヤ萬億ノ書冊五萬有餘ノ文字ハ世界

中絶無ナルトコロニアラズヤ而シテ漢字國ノ俚諺ヲ聞ケバ一
 字是レ千金ト然ラハ漢字國ノ人民ハ未ク學者ト云フ程ニアラ
 ガルモ胸中五百萬金ヲ藏シツ、アルニアラズヤ苟モ漢學者ノ
 稱呼ヲ受クル我々ニ至テハ實ニ一千萬金ヲ藏ス可シ豈ニ驚ク
 可キ富強文明タルが如キニアラズヤ然レハ我々東亞ノ社會ハ
 事實全ク之ニ及シテ大ニ切齒大ニ慨嘆セガルベカラザル悲境
 ニ立キツ、アルハ何ゾヤ西哲ペーコン氏曾テ曰ク史學ハ人ノ
 智慮ヲ増シ詩學ハ人ノ機智ヲ増シ數學ハ人ヲシテ精密ナラシ
 メ理學ハ人ノ思想ヲ深クシ道德學ハ人ヲシテ端莊ナラシメ文
 學ト論理學トハ人ヲシテ議論ニ長セシムト
 今我々ハ我々ノ漢文字ヲ見ルニ數學理學博物ノ諸學ヲ修ムル
 ニ甚カ不便ニシテ單リ不完全ナガラシ史學詩文道德學ヲ習フ

稍々少便利アルノ三故ニ東亞ノ人物ハ古来ヨリ稍々機智ニ富
 ミ機智ニ長ビタルアリ又端莊ニシテ累々然タル貴人君子ハ千
 萬人中百千人無キニアラネド思想ノ深遠ニシテ實理ニ精密ナ
 ル人物ニ至テハ殆ド空前絶後タルノ感ナキ能ハザルナリ何ヲ
 以テ漢字ハ東洋的ノ史學及道德學ニ便ニシテ數理化善ヲ學ブ
 ニ不便ナルヤ蓋シ漢字ノ長所タルヤ生レナガラニシテ象形難
 屈而モ詩趣風韻ニ富メルが故ニ詩書ニ長ゼシモノ出テ或ハ道
 徳學ヲ修ムルニ便ナリシナリ然レモ其字數極メテ多ク又不
 順序ナルガ爲ニ之ヲ學習シテ音訓隱喻故實ヲ知悉スルマテニ
 ハ多年ノ歲月ヲ消費シ螢火雪先ノ苦ヲ積ミテワヅカニ君子然
 タルヲ得ルが故ニ自當自治ヲ以テ立タザルベカザル當代一般
 ノ人民ハ何ゾ深ク數理化ヲ考察スルノ餘カアラシヤ人並ニ詩

文経子ニ涉獵スル内ニ或ハ半白ノ老ヲ嘆ジ或ハ白髮三千丈ヲ
 呻ラガルヲ得ガル可シ然ニ西洋ノ文字タルヤ僅々ニ三十之カ
 綴リヲ知得スルモ亦タ易々タルノミ事カ理想ヲ深遠ノ堺ニ走
 ラシ學理ヲ八方ニ求メガルヲ得ンヤ是レ波等ハ文明ノ風開化
 ノ力ニ依リ山ヲモ拔キ海ヲモ奔リ而シテ東亞ノ仙郷タル我カ
 豊葦原ヲシテ蟹文字ノ世ト關ケネハナラヌ時勢ニ立至ラシメ
 タル所以ナリ一匹ノ絹ト成ルモ元ハ虫ナリ一字ノ便不便
 モ豈ニ等閑ニ看過スルコトヲ得ン哉

かく辨じ去り解き到らば我々の諸君は如何なる判断をくださんと欲するや我々の唱ふるところの新文字は果して我々の國俗の過去をも害ふ可きものたる乎是れ必ず論するまでもなく我が國民の最大多数に最大便を與ふるところの好文字なりと認めらる

、ならん而して遂に其ノ新文字に大賛成せざるを得ざるべし若し之を學習しこれを日用するに至らば慣るゝに従つて益々便に見るに随ひて愈々利ならん波の平假名すら常に之を誦讀すれば一瞥一視の間に數語を通解し得るにあらざや况んや新文字の如き簡明なるものに於てをや

第十四章 新字ノ他ノ点ニ於ケル得失及速記号トノ比較

或る人余が新字を一見し難じて曰く貴兄の説は之を聞くを得たり然れども其所謂新字なるものは異形新奇甚だ可笑しからず也斯の如き文字をして我社會に實行せしめ得るや否や

余輩は之に答へて曰はん

ソモ々々文字ニハ角字アリ藏字アリ假字アリ畧字アリ梵字アリ和字アリ本字アリ古字アルニアラズヤ若し世上ノ人々余が新字ヲ以テ奇ナリト曰ハハ何カ形字ノ如キ奇字ヲ恠マサルヤ之レ猶ホ彼ノ上下ノ行ハレタル時ハ角張リタル形ヲ上品ナリトシ燕尾ノ行ハル、當時ニ至リテハすらリトシテ角ナキヲ稱スルカ如キノミ彼ノ和文等ヲ見ルニ單ニ平假名ニテ書クテスラコシニ慣レタル和學者ノ目ヨリ見ルトキハ甚だ愛ラシト

云ヒルニアラズヤ況ンヤ目今我々が使用スル所ノ漢字中ニモ
 傑浮松能佐花雲祝等ノ如キ字形ハ恰モ新字ト同形トモ云フベ
 キ文字ニシテ其人偏ニ判キ亦テ綴リタル之ヲ傑ト呼ビ水偏ニ
 ハツ子ヲ綴リテ浮ト爲スガ如キ豈ニ殆ト新文字ト同形タルニ
 アラズヤ今是等ノ文字ヲ左ノ如クモノセバ誰カ之ヲ奇形アリ
 ノ云フモノゾ是レ却テ玉篇中ノ穴冠又ハ女偏貝偏等ニアル遙
 字妄字醜字ニ比シテ幾等ノ品位ヲ高フシタル優等且ツ簡便ノ
 良文字ニアラズシテ何ゾヤ

倚 汙 栲 拊
 琴 霽 袴

或人疑團を拂ひ又問ふて曰く貴兄の説ハ此等ニ関し敢て怪しき
 所なし而して貴兄が新字を唱ふるは無造作なるが如しと余も深
 く推叩するに頗る御念の入りたる談論なり然に貴兄は此等の大
 改正を爲すに當り彼ノ元良博士其他の文學者が曾て唱導したる
 横視縦視の得失に關しては如何なる高見かある我輩を以て見れ
 ば諸先生と同しく文字を縦行に書して之を縦視縦讀するよりは
 寧ろ横行に書してこれを横視横讀するは頗る便なるが如し然に
 従來の漢字形の文字にては横行横讀するの点に於ては不便なる
 が如し貴意果して如何ぞやと

余輩ハ之ニ答ヘテ曰ク是レ一理ナキニ非レトモ彼ノ悉ク假名
 文ヲ羅列シテ細長ノ文体ヤ文章ヲ綴リナハイガ知ラズ苟モ新
 字ノ如キ偏冠ツくり等ヲ附スル文字タルニ於テハ横視ト縦視

トノ利害ハ極メテ甲乙ノ差異ナキモノタル可シ何トナレド書冊十んモノハ方六七寸ノ内ニ縦行排列スルニ過ギガレバナリ而シテ又目ハ方六七寸又ハ尺二尺ノモノニ書シタルモノヲ一覽スルニ其ノ縦行タリ横行タルニ論ナク別ニ些少ノ不便ヲ感ゼザル可シ況ンヤ我が日本人ハ既ニ大ニ縦行ノ天性ヲ遺傳シタルノミナラズ波ノ西洋人が勉メテ方形的又ハ横廣キ額面鏡幅等ヲ愛好スルニ拘ラズ我々ハ半切ノ懸軸ヲ愛シ細長ノ柱かくしヲ好ムニアラズヤ故ニ我々ノ毛筆文字が全滅セザル以上ハ寧ロ縦行ヲ愛シ否ト縦行ノ字体ニ適應セルヲ喜バズンバアル可ラザルナリ

試ニ天地ノ萬物ヲ一視スルモ横行平立ノモノヨリ縦行直立ノモノハ頗ル人目ヲ喜バシムルニアラズヤ波ノ瀑布ノ瀉々直下スルヤ平々緩流スル音無シ河ヨリ如何ニ奇觀タルヤ波ノ窈窕タリ嬋妍タル美人モ其ノ横臥スルヲ寫真スルト直立徐歩スルト何レカ人目ヲヒク可キヤ是レ我々人目ノ直立縦行ヲ愛シテ四足横行ヲ厭フ所以ニアラズヤ故ニ我々ハ断言ス可シ羅馬字或ハ假字ノ如キ甚カ細長形ニシテ見悪キモノハいざ知らズ我々ノ新文字ノ如ク字形自ラ視感器ニ適スルモノニ至テハ決シテ縦視云々ノ語ヲ以テスルニ及バザル可キナリ

是に於て客稍々察知する所ありと雖も尚ほ余輩の新字を難じて曰く我輩は新字の長所は能く之を解せざるにあらず然れども貴説の如く新字にして一朝我國民に採用せられなば學費に乏しく教育の餘暇なき人民も頗る學藝に達するを得べし而して幾分か富強の基を立つるや亦た明白なれとヒトリ我文學社會を如何

乎し可き我輩の後世子孫に至りては否な其の後進にて七得の
文天祥が正氣の歌藤田東湖が神洲正氣の歌も之を讀み是を誦す
るものなきに至らん豈に國家の元氣文學の發達上大々不便なら
ずや貴説もこゝに至りては殆ど辨解するの辞なからん

我々ハ又夕答ヒテ曰ハシ如何ニモ貴君ノ言ノ如ク漢字ニシテ
此大改正ニ逢フトキハ勢ヒ漢字ノ長所タル古詩ヤ唐歌ノ衰敗
敢テ滅スルニアラズヲ來ス可キハ固ヨリ識者ヲ待タザル所口
ナリ然レモ貴説ハ此一長所ヲ以テ彼ノ大大的好長所ヲ有スル
活文字ニ賛成セザルガ如キコトヲランカ是レ取りモ直サス萬
人ノ不便アルモ百人ノ文學者ニ益アルバ敢テ其他ヲ問フ所口
ニアラズト断言スルガ如キノ三貴説ノ如クニハ如何ニシテ當
代ノ所謂改良進歩ヲ計ル可キ乎

顧ルニ我々東亞ノ天地タル上流文學的ノ人士ハ大抵詩歌俳句
ノ思想ニ偏傾スルアルモ中流以下生産的ノ人々ハ百科工藝ノ
學理的智識ニ乏シキハ今代ノ所謂大憂將タ大聲ニアラザル無
キ乎貴君ノ如キ説ヲシテ成立シメバ古詩或ハ唐歌ノ為ニ神洲
ノ義氣ヲ勸々タラシムルガ加シト魚モ静ニ社會ノ内面ヲ顧レ
ハ漢詩ノ如キハ或ハ發シテ慷慨家ノ珍寶トナリ或ハ文學家ノ
御箱トナルコトアルモ動モスレバ又不平家ヤ陳芥子ノ玩弄物
トナラザルニアラズ而ラバ其神洲ノ氣象ヲ養成シ日本男子ノ
本色ヲ鼓舞セシメント欲スレバ必ズシモ唐詩漢文ニ眼ルニ非
ルナリ況ンヤ方今ノ社會タルヒトハ哲人ト傑士ルニテ感覺也
シムルニ足ル所ノモルニ誼同セシヨリ社會幾万ノ小英雄小女
傑ヲ感動セシムルコトハ抑テ國家ノ生理上甚カキ振動タルニ不

ラズヤ而シテ我々ハ貴君ト共ニ之ヲ彼ノ日清戦争ニ就テ實見
 セシニアラズヤ即チ我々ノ子弟ハ其ノ何氣ナキ賄度活潑ナル
 音声ヲ以テ一齊ニうてや懲セヤヲ唱歌ニ或ハ進軍歌凱旋詩ヲ
 高唱スルヤ頭ハ白ク青柳ノ腰ハ梓ノ弓タル老父モ之ガ為ニ感
 奮シ無筆徒跣ノ野婦モ言フベカラザル感動ヲ起シタルハ我々
 ガ嘗テ目撃シタル所ニアラズヤ然ルニ若シ此ノ日本歌ニ代フ
 ルニ難屈ナル漢詩ヲ咏吟セシメバ鐵血散士ニ弱虫壯士ナラハ
 イザ知らズ我ガ四千數百萬ノ最大多数ノ最要國民ハ争力其ノ
 倍屈文句ヲ解スルコトヲ得ンヤ彼ガ之ヲ解セザルハ猶ホ我文
 士壯士等ガ彼等ノ手腕ニテ千金ヲ運轉シ萬貨ヲ活用シ而シテ
 百金ノ國稅即チ軍備金ヲ上納シ得ル腦力ヲ解セザルカ如シ故
 ニ我々ハ通常人民ノ解シ難キ陳腐漢詩ノ存廢ヲ念頭ニ掛クル

ヨリ大ニ一般人及テ感起セシムルニ足ル所ノ詩文ヲ採ラザル
 可ラズ而シテ我々ガ實見シタル所ヨリモ尚一層我々ノ社會ニ
 普及セシメ我々ノ子弟ヲ鼓舞セシメント欲スレバ到底目今ノ
 漢文的ニ満足スルコト能ハザルニアラズヤ

我々ハ前章已ニ述べタル如ク我漢文字ハ甚ク詩文的ニ偏シ大
 ニ隱喻的ニ失セルニアラズヤ如何ニ東亞ノ我々ハ舊物ヲ敗棄
 セザラントスルモ漢字ノ如キ時勢ニ後レ文明ニ適セザルモノ
 ハ断然廢改セザルヲ得カレ可シ余ハ漢字ノ詩趣的タルヲ知ル
 トトモニ其欠点ニ驚カザルヲ得ザルナリ今我々ハ古人ト今士
 ノ唱フル所ヲ聞クニ甲ハ曰ク詩ハ思ナリ又志ナリ詩ハ特別十
 ル声價ヲ有スルモノ云々トテ詩文ニ心醉スルモノ無キニアラ
 ズト余モ又乙ナル意見ヲ参考セザル可ラズ乙ハ曰ク詩ハ死十

リ陰ニシテ消極將夕生産的ニアラズシテ不生産的ナリ言偏ニ
 寺ヲ附スルヲ以テ其意義ヲ察シ得可シ故ニ社會ニ立テ大ニ活
 動シ大ニ事業ヲ企テ大ニ發明セント欲スルモノ、寧ろ避ク可
 キモノニシテ好ム可キモノニアラス若シ此ノ思想一般國民ニ
 普及スルニ至テハ實ニ亡國ノ兆ナラン古今詩人トシテ稱セラ
 ル、モノ、或ハ落魄スルモノ十中八九十ヲ以テ想察シ得ベ
 シ云々ト

以上ノ言タルヤ何レモ極端ニ走リ其ノ當ヲ得ザル可シト雖モ
 彼ノ大西ノ明星タリシ「ミルトン」「マコーレー」ノ諸子ニシテ左ノ
 如キ言アルニ至テハ豈ニ戒ムル所ナクシテ可ナランヤ
 「ミルトン」曰ク

詩韻は必ずしも詩の附属物たり其真正なる裝飾たるを要せず

其の長篇に於ては殊に然り然れとも價值なき材料超越なるも
 人々を裝飾せんが爲に野蠻時代の工夫になれるものなり

「マコーレー」曰ク

詩が心眼に幻影を生ずるは恰も幻燈が肉眼に幻影を生ずるが
 如し而して幻燈が暗室に於て最も善く作用するに均しく詩は
 暗世に於て最も能く其目的を遂ぐるものなり云々

コレニ依リテ一考スルニ漢字ノ長所タル特点ノ詩趣的ハ一モ
 ニモ無ク卑下サレタルが如し若し彼等ヲシテ公言セシメハ必
 ず曰ハン彼ノ東亞人が學習スル所ノ文字ハ價值ナキ材料淺學
 ナル意思ヲ裝飾センが爲ニ野蠻時代ノ工夫ニナレルモノ也ト
 良し此ノ言ヲシテ半分ノ實ナカラシムルトスルモ貴君が所謂
 文學ノ發達上漢文字ヲ有用ナリトスル説ハ稍々頼ム可ラザル

ニアラズヤ

或人また速記學の記號ならば余が新文字より簡便にして有益ならん乎と問ふものあり

然し此速記號ハ記号トシテハ甚ダ簡便有益タルモノナルハ何人モ疑ハガルトコロナレハ文字トシテハ豈ニ殺風景甚シキモノニアラスヤ我々ハ素ヨリ詩趣的ヨリ實用的ヲ愛シ風韻ヨリ便利ヲ採用セント欲スルモノナレトモ速記學ノ記號ニ至テハ之ヲ文字トシテ貴ガ能ハガルベシマシテ速記ノ記号ハ我が日本語ノ如ク橋蓮端箸ノ如キ神紙上髮等ノ如キ平聲同音ノ多キ國語ヲ有スル國ニ於テハ我々ノ新文字ニ劣ルコト幾等ナルヲ知ルベカラガルオヤ今コ、ロニニ其ノ字跡ヲ比較スルノミニテモ尚且ツ左ノ如シ

電やたびねけと

しらに色かぬ

様と眼する

あよの松が松

第十五章

文字上躰育及勤學に關係する點

大を識り小を察し微を極め精を必すは當今文明社會に於て最も
 為さるべからず盡さる可らざるなり名を教育史上に掲げ
 譽れを教育界に走らしたる大教育家も單り大人を研究し青年者
 輩を養成したるにあらざれば兒童と共に生活して深く兒童を知り
 兒童を究めたる人物たらざるはなし即兒童の智育のみを研究し
 たるにあらざれば其躰育をも發達せしめ所謂健全なる身躰に健全な
 る智識を伴はしめざるべからざるを實行したる人士なり
 彼の「ヤスタロツキ山氏」「フレール」氏の如き「ヘルバルト」「バレー
 ツ」氏等の如き最も兒童に就て研究したる諸大家なりと聞けり
 知るべし方今の如き優勝劣敗の劇しき世界に於ては智育を重ず
 ると共に亦た大に躰育にも注意せざるべからざることを況して

霜 八度 置ヶ尺

更 = 色變へマ

ミサホヲ 見スル

千代ノ 松ヶ枝

我々日本人の如く情弱矮小の人種に於ては最も精力を養はざる可らざるを也我々は我が祖先よりして必ず矮弱なりし身軀なりし乎或は我々の飲食動作勤學の不注意將た不振生よりして識らず知らざる間に求めたる結果なりやと云ふに我々は我が中代祖先より自然々々に文弱に流れ次第々々に不規律の勤學不振生の動作より起りたりと断言せざるを得ず何となれば我々はこゝに正確なる統計を得難しと雖も近時文事の盛行學生の繁殖と共に父老の屢々當時の學生が胃病近眼脚氣肺病頭痛逆上等に罹りて病弱の身を嘆くを痛嘆するを知ればなり故に我々は左の某識者の言によりて我國民の體力減衰に就き大に猛省せざるべからむ

日本國民體格ハ羸弱ニシテ徵兵合格者ハ三分ノ一ニ過ギザレバ國民ノ體格中三分ノ二ハ軍事上ノ不具者ナルカ元來羸弱ナリ

凡我國民ハ年ヲ追フテ益々羸弱トナリ全國ノ聯隊ヲ平均シ明治拾六年ト貳拾五年兵トノ間ニ五百十五匁ノ差ヲ見ルニ至リ體格ノ羸弱トナルハ素ヨリ惟リ兵士ニ限ルニアラズ各學校生徒トモ年々虛弱者ヲ増シ此傾向ハ七歳始メテ學ニ就ク小學校ノ生徒ニマテ現レ來リ今日入學スル兒童ヲ以テ十年前ノ兒童ニ比スレバ身軀體量トモ遙ニ下劣トナレリ某外人嘗テ日本國民ヲ評シテ曰ク其性ハ誠ニ勇敢ナレド今四五代ヲ経レバ都會民ノ體格ハ徵兵タルノ資格ヲ失フニ至ル可シト若シ十年間五百十五匁ノ割合ヲ以テ體量ヲ減少スルアラバ四五代ヲ経ルヲ待タズシテ全國民總テ侏儒ト化スルヤモ知ラザルナリ云々

夫れ我國民の斯の如く年々其體量を減じ身軀を縮め隨て其の健全を失ひつゝあるは之を智者と云ふべき乎文明の民と稱す得べ

さ乎萬字を記するより千字を記しても其精力を損せざらんとするは我々の本望にあらずや如何に智力あればとて身の健全を失ひたるの智力は半ば死せるの智力なり然らば我々の社會に於て之が教育の任に當るところの方法如何をや果して我々をして安心せしむ可きや否や

多ふくの教育家有名なる研究家は必ず曰く智力に秀てたる學童たりとて必おしも其の體力強壯なりと云ふべからず然るに健全なる身體を有する兒童は概して健全なる心意を有する者なり故に兒童の身體に關係したる研究を必要とす是れ未來の國民即ち我々の相續者たるものを養成するに就て最もゆるかせにすべからざるものなりと

然らば我々は當時の諸學校は我々の相續者たる我が未來屬望す

可き學童の身體を害す可き恐ろしき機械たらずやの感なき能は
 ぞ則ち俊秀の兒童にありては或は耐ふ可しと虽も尋常兒童の體
 力にては甚だ耐ふがたき課業を授けて更に顧みざるが如し兒童
 の多ふくは其授業せられたるもの、一半を忘却するにも拘らず
 或は記憶し兼るにも関せず未だ成育機能の不完全たる者に對し
 一日五時乃至六時間の授業を爲し一週間六日の出校を命じ一年
 殆ど十ヶ月餘の勤學を爲さしむるが如き決して兒童の天性に於
 て耐へ得べきものとは云ひ難し若し兒童の身體即ち其の健康又
 は機軸に損害を與ふるが如きことありては一生恢復す可らざる
 損害たるべし故に我々は寧ろ其健康を破らんよりも簡文字にし
 て健全なる智能のものたらしむるを以て善と爲さざるを得ず况
 んや我が東亞の如き難屈なる文字に至りては如何に兒童の精神

をいたため其將に發育せんとする所の諸機能をそのふの恐れあるに於てを也

抑も児童の發達は彼の児童研究學者の主唱するが如く其神経系統の發育あるに非れば能はざるものにして其幹部は副部よりも先に發達するものなり即ち手足の筋肉を支持する中央神経先づ發達して而る後指舌脳部等の如き小機關の微細なる筋肉の發達するを自然の法則とす而して此の児童の神経系統に関する理法は教育上最も緊要なる基礎たる可きものなり體操其他の學科を以て児童の身體を教練するに當り特に注意する所たる可し即ち第一に幹部たる可き神経系統を強健にし然る後微細複雑なる部分の發達を計りざるべからず是れ此の理法の適用なり此理法の適用より云へば現今我國の幼稚園又は各小學に於て精微なる細

工物複雑なる漢字圖畫などを教ふるが如き或は一時其父母を悦ばすに足る可きも児童の神経系統發達の理法に背戾したるものと曰はざるべからず況んや漢文字の如き圖畫的文字に於てを也將た其音訓を反覆し或は其成語熟語を探り或は數隔りなき種々の文字を教へ尚ほ其漢文字が長所とする所の詩趣風韻をも味はしめんとするに至りては之を體育を重ざるの教授と稱す得べき乎我々は恐る是寧ろ文明の教育法にあらずして智育の本源たる體育を疎にし智力を得んと欲して其本源を攪乱するにあらざるなき乎

既に児童時代を經過し少年時代に入る時は其身體未だ成熟したりと云ふ可らざるも頗る強壯となり將に一定の勞力に服し得可きものとなり其智力は著しく進歩の状を呈し其再現力再生力は

確實となり記臆力想像力も亦た大に活潑となり學術に就きても
 進歩を見るの時機なれとも断定推理の力に至りては唯漠然とし
 て明晰なる注意と敏辨とを以て為すことを得ず然れとも我々漢
 字國に於ては此時こそ最も文字を記臆し得る時代なるを以て其
 活潑なる記臆力を以て漢文字を無暗に記臆せんとし其の断定推
 理の力に乏しきが故に難屈なること程學門の為なりと心得妄に
 多畫異様の文字を好み作文等に倂屈なる文句をつらね字引を探
 り假名附を携へ而して以て是れ學門の本趣意ならんと誤解する
 に至るなり

今我國の多數有要なる人民を視るに成年時代まで學問するもの
 甚だ少數にして多ふくは少年時代に至りて其學業を止め甲は甲
 業に従事しては乙職に就きて各々其家務に當り國務を負ふもの

なり然るに此の大多數の民にして或は學舎に於て非常に勉強し
 たりとするも其勉強の大半は漢字を記臆する点に在りて其他無
 理矢理に多少畫學算術物理等を學びたるも其發育に不相應の學
 科にして讀むは讀みたれとも其意義其活用に至りては漠然たる
 者十中八九或は能く記臆したりとするも六々數漢文字の作文倂
 屈なる字義澤山ある學科の爲め其體育を損したる点と差引する
 時は或は幾千の利益を國家及子孫に與ふることを得可きや我々
 の常に心配に堪へざる所なり何となれば斯の如く身軀の發育を
 害は人まで苦學したる田力子は一に其身心を病弱にし不健全なる
 意思を有するのみならず或る會堂或る式場に於てタニマル(谷ル)
 ホコトン(矛楯)シユクシ(祝詞)などの言を吐くこと少しとせず嘗に
 此の怪語を爲すのみならず多少の勉學中其主力を傾けたる点は

漢文字の記憶書取朗讀講義暗誦等に在りしを以て理化の思想は至て薄弱にして事物の考究力に乏しく所謂専門家はあらずして其學ぶところ求めざるに不生産的専門に流れ其言ふところ又専門に失するは獨り普通教育を受けたる普通人民のみならず貴人紳士にして而して文墨に流れ政談に偏し或は雅言玉語に富みて俗言俗事を解せず或は理科生理に暗きもの理科生理に暗きのみならず實業の實を知らざるもの地誌を知らずして外交論を為すもの今日の社會に揚々たるは漢文字即ち現今國字の大に關涉する所にあらずして何ぞや而して是れ優勝國たるの兆乎劣敗國たる可き因源たらや否

蓋し人間智識の深淺文化程度の高低は多くの文字多くの字義を究むるにあらずして多く見聞せしや否多く研究せしや否に在る

ありて存するなり如何となれば澤山の文字を記し澤山の漢字に馴染むときは勢ひ他の學源を究め他の學泉を入るゝこと能はざればなり是れ漢學者が終生一兩科の學に汲々たるも其智識甚だ偏隘にして聖人の主義と西洋實利の主義と幾干の相違ある也將た生理學と教育學の關係若くは物質的の學術に至りては馬耳東風たる所なり

試に彼の河泉を看よその初めや涓々糸の如き細泉にして溪間を過ぎ木葉をくゞり漸くして岸に當り岩に堰かれ遲々として流るなり若し他泉の入るもの無ければ鼠も涉り蛙も跳ねん然とも他泉の之に混入するあれば漸く廣く漸く深く而して他流の入ること二泉三泉四川五川となるに至り波を揚げ岸を打ち大魚を躍らし舟筏を浮ぶることを得人の智識我等の心意も又是と同一流

なり若し難屈なる文字のみ學び詩を賦し文を作るのみならば所謂涓々衆の如き細流たるのみ之に他衆を混ぜざれば無筆と相距ること僅に數歩たらん然らば則ち人々の知識をして深且つ廣ふせんと欲すれば可成的簡便の文字を採用し出来可き丈け無用の文字を減じ而して他衆即ち諸種の學科に通じざるべからざる也以上概論したる所によれば第一兒童の躰育上將來の國民が元氣に關する点より見るも我漢文字を大改良して其學科を省略し其課業時間を減じ其精神を活潑ならしめざるべからざる必要あり第二漢文字の如き六ヶ敷文字に心醉する時は勢ひ當代の複雑精緻なる學理を攻究し難く人間の勤學上勞して功なきを以て断じて新國字を採らざるべからざるなり

第十六章 結論

嗟呼我々ハ我東亞をして我が新文字の如きを採用せしめんとするは豈又止を得んや余ハ實に現今宇内の大勢及我社會の有様を観察して之を切論せざるべからざるを感ずるなり

抑も東亞の文字は將來如何になる可き乎如何に如何なきざるべからざる乎我々ハ信じ我が日本の將來は多望多端なりと愈も刻下の最大急務ハ新國字を採用して我國の生活と精神を振作するに在ることと述べたり而して其方針其計畫は多々ある可しと愈も要するに羅馬字主義乎かなのくわい乎新字の主義乎にあることを論じたり而して其の手段の圓滑且つ平易にして我國民を利益することの大なるは新文字に在ることを論定せり然れとも我々は敢て之を臆断しこれを妄想に附せず例を世界の進路に求め

たり而して世界の進路は難屈不便の方針にあらずして簡便輕易
的の文字益々流行愈々盛大なることを目撃せり更に之を天下の
大勢に質したるに天下の大勢も亦簡便實用主義の大勢にして世
運の進歩に連れつゝ次第に平易にして實用的の文字に傾き實行
は正味文字は骨計しぼり粕たることを証明しつゝあり而して我
邦の一局部たる我々の社會に於ても天保など、文久の子に云は
れ文久など、明治の見にはるゝことを發見せり然らば則ち我
國現今の漢字は次第に劣敗し漸次に攻撃せられ將に遂に四面悉
く聲字の勢力たりんとするや明白なる境遇にあらずや
世に種々なる議論を唱へ或は我々を目して管子の末派「ベンガム」
の功利主義にあらずれば必ず物質的文明主義のものなりなど漫
罵するものなきにあらず而して其所説を傾聴すれば一に物質的

効力は道德主義に悖戻し東亞的風習を重せざると云ふに過ぎず
我々は本篇に就てはつとめて斯る議論を避けんと欲すれとも方
今天下の人士には案外に妄想家多ふく思想頗る陳腐のものあり
て其の新たに學べるものも常に新智識を養ひ舊智力を補ふ所の
新説を見るもの甚だ欠乏なるを思ひばこゝに一言の辨明を爲さ
ざるを得ざる点なきにあらずなり

今我々は東亞的慣習を基礎として物質的文明を否とする論旨を
うかばふに甚だあわれむべき老婆心たるに過ぎず何となれば彼
等は現今の不道德者を見れば則ち曰く是れ「バックル」者流を禮拜
し物質的効力を重ざるの致を所らなりと或は一の惡漢一の犯罪
者を發見すれば世は澆季に推移せり孔孟の道何れにか在ると忽
ち君子を氣取り陳丘子に摸せんとすること是れなり

試に我々ハ斯る意見を抱ける人士に問はんと欲する数点あり
一 道鏡的將門流ノ人物ハ現代ノミニアリテ古昔ハ絶へテ
之レ無カリシヤ

二 右工門的團丸郎張ハ單リ今人ノ獨得專能ニシテ古人
曾テ之レ無キ乎

三 世人或ハ支那ノ管仲晏子ヲ誹リ彼等ガ功利説及其實行
ノ偉大ナルヲ没セントスルモノアリ然レ氏孔子ハ之ヲ
稱シテ曰ク管仲微リセバ吾ソレ髮ヲ被リ社ヲ左ニセン
ト云ヒシハ功利主義ヲ駁シタルノ言カ將夕賛シタルノ
語ナルカ

四 幼童婦女モ伴ナクシテ雲山千里ノ旅行ヲ爲シ父母ヲ訪
ヒ兄妹ニ和シ將夕壯快ナル事業ヲ爲シ得ルハ何等ノ主

義何モノ、方便ゾヤ

五 歐米諸國ニ比シテ微々振ハガルコトナガラ一片ノ新紙
ハ東西南北ニ配布セラレ寒村僻地ノ老婆幼童モ君ト國
トノ爲ニハ恤兵ノ奉歡迎ノ事ナリシハ果シテ文化以前
ノ事實ニシテ明治ノ今日ニ跟跡ナカリシヤ

六 東亞ノ我々が聖人トシテ尊信スル神農黃帝堯舜ハ如何
ナル實行家ナリシヤ波等バ現今ノ所謂文人流ナリシ乎
將夕偽君子然タリシヤ波等ハ身自ラ百草ヲ嘗メテ醫藥
ヲ爲シ心ヲ盡クシ意ヲ用ヒテ民利ヲ興シ民福ヲ計ラガ
几乎如何

七 新紙ナキ未開ノ時代ニ於テハ一郷ノ騷動一地方ノ大事
事之ヲ訴ヘコレヲ傳フルモノ無ケレ氏夫婦ノ喧嘩ヤ藝

妓ノ鼻音マデ喋々大書し一寸聞挾ミタルヲモ針小棒
大ニスルハ何レノ時代ゾヤ

八先年濃尾ノ震災三陸ノ海嘯アルニ當リ義捐ノ物品施與
ノ金銭一縣下ノミニテモ數萬圓ノ額ニ上リタル是レ今
人ノ不徳義不正ヲ立證スルノ所為ナル乎否ヤ

凡そ斯の如きことを一々枚舉すれば議論題外に走り千紙萬葉を
染むるも盡くること無かる可ければ我々は寧ろ一步をゆづりて
黙せざるを得ざるなり只我々は功利主義の鋭鋒物質的の文明を
して單り社會の一部又は運輸上の点のみに止めずして此の實
利快活なる方針をして我が實業界に尚ほ大に注入せざる可らず
何となれば今日の我が農商工は未だ器械の運使用道具の改良に不
熱心にて文は難屈なる漢字を使用し器は祖先傳來の草ほり器具

に安んじ學理の應用を知らずして商工會或は農談會の氣焰あが
らず常に吞談會のみだんに執心するもの百中九十九なればなり

世人或ハ千萬無量の功德を説き學庸論孟に汲々たるも恒産なき
ものは恒の心なきものなり恒の心なきものは動もすれば小事に
不平し世を怨み人を毒する邪心を有せざるもの甚だ稀なり若し
恒産なくして恒心を有するものあらば此人や恒産あるもの、庇
保に依るに非ずんば正に非常の士なるべし恒産ありて恒心なき
者又無きにしも非れとも斯の如きものは忽ち其恒産其地位を失
して暗界に彷徨す可きなり然らば則ち普通人民たるものは宜く
其の恒道に依りて恒産を求めざるべからず普通の修身普通の金
言必ず汝を玉にし汝を社會に立しむ可きなり

然に東亞は勿論我日本の我々即ち其大多數は甚だ迷信に富み俗

佛俗神を拜すること無茶苦茶然祖先及子弟が粒々辛苦せし金錢物品湯水の如く放擲してまた觀るにあらざる數拾萬の淫祠と數萬個の穢堂は村々辻々に保存せられ識者をして慨嘆せしむ可き法式の中に嚴立せり況んや數萬數千の文字は可憐なる我々の好見女に苦學の上に一層の苦學を増加せしめ無限の漢籍は我が好學士をして迂の上に一段迂ならしむるものあるを也若し是等の爲に消費する所の光陰を經濟的に計算すればまことに無量の傲奢誠に無限の贅澤に該當せるなる可し

此の如くにして世人尚ほ我國の文明に誇り東亞の主意に満足し得べきや我々は惡意に之が改良を企て故造に是を駁撃せんとするにあらざる獨り我が貧國の貧たる所以を察し其惡徳不善は決して功利主義或は物質的文明の作用に非ざるを認定せらるれば則ち可なり

試に我國の生産力を以て西洋の小邦たる白耳義に比するに我は彼に遜色あり而して其人口に至りては我は彼の七倍に當れり豈慚愧の次第ならずや然とも天我國の地形を善くし最も音字國に遠ふく最も強國に離れ四隣未開にして四方海洋なり内事の宿弊外事の刺撃うすくして(近頃一海ノ隣ニ猛獅ノ鼾声アリ)悠々と樂み安閑と睡り得るは世界中我國の如きもの何れにかある○若し獨となり佛となり伊となり填とならば果して如何をや一塊の丘巒を隔つれば即ち瓜を磨ぎ牙を鳴らし敵國なり一水の江河を越ゆれば則ち兵を増し砲を備ふる別國なり佛に不平あれば獨の客となり獨に利なければ輒ち佛に走り填に行き伊に寓し露に入り英に往し米に居して人種混淆不平タラシク然れとも其政府は

獅子を踊らし虎を舞はしの才畧あり其良民は獨立實行の氣盛にして自主自由の法度を好む然して祖國の歌を唄ふて國務に盡きんとする正氣また勃々然

看よ彼等は人口一人に就き三圓四圓乃至六圓以上の陸軍費を負担して苦しきを訴へず然に東亞の兄株たる我々は一人僅に圓未満の負担に不平しつゝあるにあらむや我等に日本魂あれば彼等は佛に佛の精神あり獨に獨ち魂あり英に英の英氣あり露には露風の氣根あり海に百艦を浮べて港に千砲を架し大々たる經綸を吐いて堂々たる運動を試む豈に其國民の簡便なる文字を用ひ實用教育を重んじ治澄なる動作彬彬たる進歩無くして如何ぞ茲に到ることを得んや

然に我々は是れ之を察せずして獨り我國にのみ大和魂あるものなりと心得或は神國の宗教は盛大にして無垢なりと喜び産婆も醫者の氣村書記も官吏然とし月落烏啼て而して床の番而て陳腐なる道德學を講ずるは果して如何の心掛や宜しく實用的ならざるものを大改正し不經濟的の制度を改め不便の事物を却けざるべからず我國固有の義俠心を磨き上げ東亞四億萬の鼻たらし數千萬のアツケヲ漢を奮起せしめざるべからざるなり
夫れ我々東亞の風習は隣家の一老婆死したりとて是が為に哀哭し悔恨を述べ香典を呈し貴重の時間を抛て七日七夜の間念佛講を催ふし二七三七には法會を開き僧を招き縁故を延き香を焚き經を呻り其法式非常に九度クラ敷にあらむや然に我々の隣國たる印度既に亡滅し安南の如く緬甸の如き手に蟹行蝸涎の文字(其實輕便簡易之文字)を記する碧眼子や卷髮君の為に掠奪せられつ

、あるを知らずして怙然これを看過するとは果して何の心ぞや
而して又波斯の前途支那や大韓の前途は如何數千年來漢字の本
家本元なれとも今や殆ど猛獅の爪牙に掛けられ其轉覆の期迫り
つ、あるにあらばや

彼の陽春輕暖の候人々の花見々々と浮立つ時にあたり己れも浮
されつ飛鳥の山隅田の堤に至り見れば名こそ或は花見なれ其の
實に至りては花よりも物言ふ花に目を配り風に目の付く緋縮緬
たるあり人情の弱点社會の奇思識なる往々此類なり故に堂々た
る大國の滅亡するや人其何の因たるを究めず否之を知るも其の
隣國の民は一滴の水を提げず片言の悔みを述べず益々不便の文
字を獎勵し愈々浮華の言文に耽り而して以て治國の要を得たり
とするに過ぎざるなり

余曾て時事歌をつくり其中に謂へることあり左の如し

亞細亞の憂へ其はなんぞ

仇な漢字にふけりつゝ

彼是偏に見つくり

學び習ひてたのしめど

たい弊まこと鰻の味

大好じつにさどう汁

覺えお知らずたぼれ顔

是れを亞細亞の憂へなる

亞細亞の急務そはなんぞ

簡便平易の文字を採り

獅子の國へも留學し

わしの里にも貿易し

ふるアメリカの厭ひなく

星の國にも寄留せよ

これぞ亞細亞の急急務

亞細亞の憂へ其はなんぞ

數萬數千のから文字に

あたら命ちをちゝめつゝ

玉の男の児はかごの鳥

花の女の子は箱のなか

自ら助く意氣よわく

たは卑屈に依頼願

是ぞ亞細亞の憂へなる

亞細亞の急務其はなんぞ

新たな新字を相さため

便利うき世に便はかり

なん字難句を忘りぞけて

いろはにほへと相つゞり

くにお無學の多みを絶つ

外つ仇くにをなびかせん

これぞ亞細亞の急急務

亞細亞の憂へ其はなんぞ

てん笠取られ恬として

天下あまぬくめくら顔

あ人南蹈まれあ人閑と
つねなき浮世觀世音

四億余千もアケラ漢

風の前なるやもし火不

これを亞細亞の憂へなる

ア、我々は將來我東亞の文字は如何に如何すべきや我々は之を断言せん新字を採用す可し實業と實學の發達せざる可らざる必然の理に従ひ自然の結果によりて新文字國となる可しと我々は縱令我文學社會が余を嘲笑し我が社會が大不賛成を唱ふるこゝとあるもそれはまことに一時の波瀾に過ぎずして現今及將來とも宇内の大勢は早晚我國を驅りて北大改正に赴かしむ可しと信ず

るものなり又たとへ支那の大豪傑が千人の韓退之を養成し萬人の李白を再生せしめ硯を研き筆を振ふて千辨萬論するも到底今後の大勢に敵すること能はざるべし蓋し自然進化の大勢には

豚尾の時代もぶつこわれ堅い角の字角とれて形字の形態
改り流石の頑固も何時となく「モンテッルツ」に人轉車漚

車に漚船に活言機西も東も蕩々と皆其中に打ち込まれん

我々は素より帝國の一分子天下何人に向ても何の求むる所なく何の不平あるにあらば何を苦みてか自ら好んで論難すること欲せんや我々は固より滔々たる天下と共に否僅々たる學者と共に漢詩を賦し漢文字に耽り西に向ひ東にころび和らか國密で練る御政道を稱賛し華麗な文字皇國の寶と唸し立て骨は媮安姑息皮は輕妙婉轉たる著作を爲し市に枯魚あれど鞅鞅の苦を知らず

千秋の治國萬歲樂な民となり悠々閑々當世の才子然として一時の利益を欲するを知らざるにあらず然れども我制度に改良を加へず我文物徒に骨汁をばり粕たる文字を飾り富國の上臺たる普通人民が活用力又は考察力に乏しければ遂に共ニ東亞の敗亡を招かんのみ是れ我々は不肖不才の身を顧みず區々の意見を草して大方諸賢の猛者を請はんと欲する所以なり

余ハ居常信ズル所ハ他ニアラズ余ハ我國民ガ實際ノ智徳ノ基礎ヲ普及堅固ナラシメザルキハ國家ガ永久不滅ナル繁榮即チ富國強兵ハ決シテ見ルベカラザル事ナリ余ハ外面的ノ武力如何程雄大ナルモ武備赫々タルモ深く感服スル所口無シ余輩ガ意ヲ注キ雨ノ夜モ風ノ日モ嘗テ忘ルコト能ハザルモノハ余輩ト共ニ生活スル人民ヲシテ責メテハ伍家毎ニ一枚ノ實用新

誌ヲ翻サセ度而モ現今ノ如ク振假名附ニアラザル尚活用アリ文字ニテモノセシモノヲ五家ニ壹号ツ、購讀セシメ度ニ在リ顧フニ我國ニ於テ我々ノ如ク妄ニ政法ヲ非議セズ又粗放ノ言論過激ノ舉動ニ流レズ自己ノ業務ヲ樂ミテ而モ幾多臣民タル義務ヲ盡シツ、アルモノハ蓋シ少数ナラン然レトモ苟モ最大多數ノ最大幸福ヲ得難キ不便ノ文字ヲ使用シ信屈ナル文句ヲ教授スルヲ目撃スルニ至テハ遂ニ黙々タルコト能ハザル可シ如何ニ獨國ノ制度ニ模シ英露ノ長ニ倣フモ如何ニ武器ヲ磨ギキ武備ヲ飾ルモ如何ニ樓閣官舎會館議堂ノ山魏々乎タリ堂々然タルアルモ余ノ眼中ニハ却テ岌々乎タル一幻影ニ見ユルノ三何トナレバ國民ナルモノハ何レノ國イヅレノ郷土ニ於テモ自營自活ヲ主トシ甚ダ余暇ナク甚ダ多忙決シテ々々難屈不便ノ文

字ヲ教習シ以テ貴重ノ日月ヲ消失シ得ル贅澤ナル時間ヲ有ス
ルモノニアラガレバナリ然レトモ是レ國家ノ基本ニシテ此ノ
憐ム可キ大多數ノ人民ガ知識品行ノ程度如何ニヨリテ或ハ優
勝或ハ劣敗スルガ故ニ只ノ千字只ノ千人百字ニテモ百人ニテ
モ可成的簡便ノ文字ヲ授ケ而シテ我憲法ノ恩先立法ノ美ヲシ
テ此ノ最大多數ノ中ニ輝カシメ政略ノ善教育ノ徳ヲ此ノ大多
數ノ國民ニ達セシメガレバ政府ノ職分政治家ノ本心何レニカ
在ル將タ教育家ノ本意イヅレニカ存スルヤ

我々が居常の心事實に斯の如し而して我々は我々皇室の尊榮を
希望し我國家の隆盛ならんことを欲し我が政治の美ならんこと
を欲して山々堪へ難きものなり之を欲する至情に至りては人よ
り萬倍ならんことを願ふて止まず故に必ず先づ我國民と共に新

誌を語り我國民の文盲を療治せんことを得ず若國民の
大多數^數にして時事を知らず寧ろ學を知らずんば國家は暗黒にして
社會は腐敗し國力を振作すること能はざる可し故に我が平民社
會を以て文明の恩澤に浴せしめんには簡便實用的の教育をさつ
くるより善きは無し是れ實に國家の富榮政府の鞏固を計る最良
手段の最先急務を謂はざる可らざる

嗟呼我國我々の郷土をして將來「アリア」人種の支配を免れしめ
んと欲せば神速大雄断を以て新字を採用せざるべからず新字を
採用して而して大に新教育の發達を計らば我國前途の好望は帝
に春色千里のみならずこゝに始めて日本男子の本色を發揮し我
快活男子として宇宙を横行するに至らしめんこと余は敢て東亞
の天地に豫告するを辞せざる可し

明治三十一年二月十二日印刷
同 三十一年三月二日發行



著者
發行

青森県東津軽郡廿八川村

白鳥 鴻幹

東京日本橋區作内町壹番地

小野里 重太郎

東京日本橋區三佐内町一丁目

印刷所

精英社

